

# 2014

## 近畿双松会報

— 2014(平成26)年度 —

島根県立松江中学校

島根県立松江高等学校

島根県立松江北高等学校





# 2014(平成26)年度 近畿双松会報

## 目次

2014(平成26)年度「総会 講演会 懇親会」次第	2
2014(平成26)年度「総会 講演会 懇親会」報告(兼)年間活動方針報告	3
総会・講演会・懇親会 出席者	6
ご挨拶	10
開会ご挨拶: 近畿双松会 会長 押田良樹(高11)	
来賓ご挨拶: 双松会 会長 庄司肇(高11)	
松江北高校 校長 泉雄二郎(高26)	
退任、新任ご挨拶	13
近畿双松会 会長 押田良樹(高11)	
近畿双松会 新会長 松本耕司(高16)	
2014(平成26)年度 松江北高十大ニュース(日付順)	14
記念写真	16
記念集合写真/期別テーブル写真/懇親会スナップ写真	
講演	22
『川端康成の茨木中学校時代の恩師「倉崎仁一郎(松江中7期)」の真実』	
尚絅大学 宮崎尚子	
総会議事(1) 2013~14(平成25~26)年度 近畿双松会活動事業報告	28
総会議事(2) 2014(平成26)年度 近畿双松会 会計決算書	29
総会議事(3) 2014(平成26)年度 近畿双松会役員	31
2014(平成26)年度 運営費支援者ご芳名	33
追悼 物故会員	34
2014(平成26)年度 諸行事報告	35
■第7回落語鑑賞会/■第34回 ゴルフコンペ/■第9回 文楽鑑賞会	
■第9回 歴史ウォーキング/■第4回「里山歩くぞ!ハイキング」	
同期会便り	39
高16期(昭和40年卒業)近畿地区同期会/高22期(昭和46年卒業)関西同窓会	
2015(平成27)年度 事務局会議新年懇親会、新年役員会	40
事務局会議&有志新年懇親会/近畿双松会「新年役員会兼懇親会」	
会員近況報告	41
自由投稿	
『国立民族学博物館と実家』~「設立55周年記念会報」投稿の補遺~	
佐和田 丸(高10)	48
『松江のたからもの』~2014年5月31日、高橋一清氏のご講演のご紹介~	
松本耕司(高16)	50
協賛広告	54
編集後記	56

2014（平成26）年度  
近畿双松会「総会 講演会 懇親会」次第

2014年12月7日（日）正午～午後4時（受付開始11時30分）  
於：中央電気倶楽部 5Fホール

◆ 第一部「平成26年度総会」（正午～12時30分） 司会 三好 資子 常任幹事（高20）

1. 開会の辞：
2. 物故者黙祷：
3. ご挨拶： 近畿双松会 押田 良樹 会長（高11）
4. 来賓ご挨拶： 双松会 庄 司 肇 会長（高11）  
鳥根県立松江北高等学校 泉 雄二郎（新）校長（高26）
5. 議長の選任： 押田良樹会長
6. 議事： (1) 活動報告：松本耕司事務局長（高16）  
(2) 会計報告・監査報告：梅木隆志監事（高16）  
(3) 役員を選任：新会長・事務局長ほか新役員の承認
7. 閉会の辞：

◆ 第二部「講演会」（12時30分～13時30分） 司会 押田良樹常任顧問（高11）

【演題】：『川端康成の茨木中学校時代の恩師「倉崎仁一郎（松江中7期）」の真実』

【講師】：宮崎 尚子 氏（高綱大学文化言語学部助教）

<講師紹介>大分県出身。最終学歴九州大学博士課程。専門は日本近代文学、国語科教育法。川端康成研究家。華道小原流師範。

<休憩(10分) …この間、①金平 憲双松会幹事長(高16)より双松一本の植替え、西川津校舎記念碑移転工事状況を映像で紹介、②事務局より本年度の各活動状況を映像で紹介>

◆ 第三部「懇親会」（13時40分～15時45分） 司会 松本 潤 副会長（高23）

1. 開会の辞：
2. ご来賓紹介：

庄 司 肇 様	（双松会会長）	金 平 憲 様	（同幹事長）
泉 雄二郎 様	（松江北高校校長）	佐 藤 昌子 様	（高52、同教諭・双松会校内幹事）
宮 崎 尚子 様	（講師・尚綱大学助教）	伊 藤 征 治 様	（近畿松江会会長）
竹 谷 奨 様	（近畿松江会幹事長）	岡 崎 守 夫 様	（大阪府立茨木高校校長）
中 村 和 夫 様	（茨木高校久敬会事務局長）	岩 井 英 雅 様	（同広報委員長）
3. 乾杯：（音頭）双松会 金平 憲 幹事長
4. 会食・懇親・スピーチ：
5. 記念写真撮影：（撮影）土田和男常任幹事（高16）、宍道弘志常任幹事（高31）
6. 校歌斉唱： ※赤山健児の歌 ※山脈浮かびて（全曲）
7. 万歳三唱： （音頭）春日敏邦様（高5）
8. 閉会の辞： <終了(解散)：16時>

## 1. 2014 (平成26)年度新年役員懇親会

(年間活動方針確認)

恒例の新年役員懇親会は、平成26年1月31日(金)に16名の役員が出席して中央電気倶楽部で開催され、①昨年度の設立55周年記念総会懇親会を盛況裡に終えたこと、②「会則改訂」がスムーズにスタートできたこと、③残るは設立55周年記念会報を無事発刊することであることを確認した上で、平成26年度について下記のような運営骨子を了解いただきました。

### [平成26年度 運営の基本]

- ①次の60周年に向けての新たなスタートの初年度であり、若い世代の参加促進を図って地力をつける。
- ②役員改選年であることから、総会に向けてスムーズに各期ごとに継続、交代の手続きをすすめて、会を運営する力を充実させる。
- ③総会講演会懇親会以外の諸行事も例年どおり開催する。

### [ご出席の役員]

<会長>押田良樹(高11) <副会長>松本耕司(高16)・渡辺悟(高20)・松本潤(高23) <監事>梅木隆志(高16) <常任幹事>山田稔(高5)・加藤巡一(高14)・金坂喜好(高15)・岩田一志(高19)・三好資子(高20)・宍道弘志(高31)・富岡幸子(高35) <幹事>田村勉久(高6)・山崎果(高8)・清水良子(高9)・萩野貫悟(高12) 以上16名



## 2. 2014 (平成26)年度「総会 講演会 懇親会」

平成26年12月7日(日) 正午～PM4時 於：大阪市北区堂島「中央電気倶楽部」5F

一年前の設立55周年記念の集いの熱気がまだ記憶に新しい中、お馴染みになった堂島の昭和初期建設のレトロな雰囲気が漂う中央電気倶楽部ビルに、今年も112名の出席者を迎えて盛大に平成26年度の総会・懇親会が行われました。

ご来賓として松江から双松会の庄司肇会長(高11)、金平憲幹事長(高16)、母校松江北高からはこの春、河原一郎前校長(高23)の後任として江津高校から着任された泉雄二郎校長(高26)と佐藤昌子教諭(高52：双松会校内幹事)に、また講演会講師をお願いした尚綱大学助教の宮崎尚子氏には熊本から遠路ご出席いただき、さらに島根県大阪事務所の糸原直彦所長(高24)、松江のふるさと会である近畿松江会からは伊藤征治会長、竹谷奨幹事長をお迎えしました。

また、今回の宮崎尚子氏の講演テーマ「川端康成の茨木中学校時代の恩師「倉崎仁一郎(中7)」の真実」に深い関わりのある大阪府立茨木高校から岡崎守夫校長、同校の同窓会である久敬会から中村和夫事務局長、岩井英雅広報委員長にもご出席をいただきました。

## 3. 第一部：2014 (平成26)年度総会

第一部の総会には三好資子常任幹事(高20)の司会で始まり、物故者への黙とうに続いて押田会長の開会の挨拶のあと、双松会庄司会長、松江北高校泉校長からそれぞれご祝辞をいただきました。(ご挨拶の詳細は別掲)

総会議事は、押田会長が議長、松本耕司事務局長(高16)が報告者となり、①活動報告、②会計報告、梅木隆志監事(高16)による監査報告がなされ、それぞれ承認されました。(詳細別掲)

次いで、今年が役員改選期であることから、③役員選任の議事に移りました。冒頭、議長である押田会長からご自身が図らずも5年の長きに亘り会長を勤めていることから後進に道を譲りたいと

の動議があり、この一年近く検討を重ね、会則に従っての手続きも終えたので、第九代の後任会長には現副会長・事務局長の松本耕司氏を推薦したいのご提案が諮られ、満場一致で承認されました。

続いて松本新会長より、押田前会長を常任顧問に、渡辺悟氏(高20、副会長)を兼事務局長に、三好資子常任幹事を新しい副会長に選任したい旨の提案があり、いずれも拍手で承認されました。また松本会長から新しい常任幹事、幹事の紹介と退任役員の報告があり、いずれも承認されました。

次いで、押田前会長のこの間の会員の皆様のご協力に対する御礼の挨拶、松本新会長、渡辺新事務局長、三好新副会長の受諾と決意表明の挨拶があって、総会議事をすべて終了しました。

#### 4. 第二部：講演会

第二部は熊本から尚綱大学助教の宮崎尚子<sup>しょうけい</sup>氏をお迎えし、「川端康成の茨木中学校時代の恩師「倉崎仁一郎(中7)」の真実」の演題でご講演をいただきました。

初めに、宮崎氏の倉崎仁一郎関係の調査に協力をされた押田常任顧問から、同じく松江での調査に貢献のあった石倉昭子さん(高11)のご活躍に触れながら、今回の講演をお願いするに至った経緯と講師のご紹介がありました。



会員以外の方に講師をお願いしたことは初めてですが、宮崎氏は中学時代の川端康成と恩師倉崎仁一郎の関わりを、興味深い写真を豊富に使用したパワーポイントを使って分かりやすくお話いただきました。言わば私たちの大先輩の中から松江

の偉人を新しく発掘いただいたとも言えるお話に会場は大満足、そしてあたたかい空気につつまれました。(講演の抄録は別掲)

なお、講演会終了後、懇親会までの休憩時間を利用して、双松会金平幹事長から母校の双松の一本の植え替え工事、また西川津校舎跡地の記念碑の移動工事の様子が映像で紹介されました。同じくこの一年間の近畿双松会の行事(ゴルフコンペ、落語や文楽の鑑賞会、歴史ウォーキングや里山ハイキング)の様子が映像で報告されました。

#### 5. 第三部：懇親会

第三部は松本潤副会長(高23)の司会で始まりました。あらためてご来賓の紹介の後、双松会金平幹事長のご発声で全員で声高らかに「乾杯」し、懇親会がスタートしました。

今回も中63期の大先輩から前年卒業したばかりの高63期のフレッシュな学生ゲストまで(奇しくも新旧の卒業期が同じでした)年齢差実に69歳という幅広い年代の世代を超えた楽しい交流の場となりました。



歓談も佳境に入った頃、壇上に最初に登場したのは、新任の泉校長の激励に駆けつけた同期26期の4人の皆さん。それぞれ自己紹介や高校時代の思い出、裏話などを披露され、泉校長を激励いただきました。泉校長からもお返しの挨拶がありました。ほのぼのとしたひと時でしたが、泉校長も同期援軍の到来に心強かったことでしょう。

続いて、今年の高64期の学生ゲストの皆さん8

人（大学1～2年）が団体で登場。佐藤昌子先生から激励の言葉とともに、北高3年時の担任から預かってきていただいた激励のメッセージが一人一人に手渡されました。学生の皆さんの嬉しいような恥ずかしいような笑顔が印象的でした。

さらに、昨年、三味も太鼓もいらぬ声一本の荒技で正調安来節を歌われた福本秀一さん（高29）が再び福岡から駆けつけていただき、同期の手拍子応援を受けながら名人芸を再現いただき、会場を酔わせました。（福本さん、来年もよろしくお願ひします。）

そして最後に、女性最年長のご出席者、田端要子さん（高1）にスピーチをいただきました。1期の

男性の皆様は近畿双松会を長く支えていただき、今回も多くの皆様がお元気でご参加いただきましたが、女性のご参加は初めてであると思われ、事務局も感激しました。安来ご出身の田端さんは、戦後の学制改革により旧制松江高女から昭和23年に新制の松江第二高校に編入、翌年松江第一高校と統合した松江高校の1期生として昭和25年に卒業されました。当時は男女共学とはいえ男子は松江中学のあった赤山校舎で、女子は松江高女のあった母衣町校舎で学ばれたそうで、同期の男性とは教室を同じくされたことはないと言われる田端さんのお話に、母校の歴史の長さや重みをあらためて感じさせられました。何かしら会場があたたかく幸せな雰囲気につつまれたひと時でした。田端様、有り難うございました。



しばしの歓談の後、恒例の記念撮影。自称従軍カメラマンの土田常任幹事（高16）と宍道弘志常任幹事（高31）により、4組に分かれて全員がにぎやかに記念のカメラに収まりました。

そして、いよいよエンディングの校歌斉唱。有志が壇上に上がって「朝日たださす・・・と勇壮に始まる「赤山健児の歌」、そして「山脈浮びて」を全員



で力一杯歌いました。これを歌うために総会にご参加されている方もいらっしゃるのかもしれませんが。

最後の万歳三唱のご発声は日本画家としてご活躍中で、諸行事へのご参加で後輩たちにもお顔の広い春日敏邦さん（高5）にお願いしました。

力強い万歳三唱は、まさに来年の再会を期す誓いにも聞こえ、無事、盛況裡にお開きとなりました。その後、多くの期ごとのグループが思い思いに二次会を楽しまれたことでしょう。

以上

#### ■総会・講演会・懇親会を支えていただいた皆様

当日は多くの役員・有志の皆様のご協力により開催、終了することができました。下記にお名前を紹介し、心より御礼を申し上げます。

○実行委員長：押田良樹（高11）○総括：松本耕司（高16）、補佐 渡辺悟（高20）○第一部司会：三好資子（高20）○第二部司会：押田良樹 ○第三部司会：松本潤（高23）、補佐 山寄麻里子（高20）、廣瀬弘美（高29）○中央電気倶楽部担当：松本潤 ○受付・会計：池田喜美代（高19）、三好資子、山寄麻里子、物種慶子（高20）、糸原直彦（高24）、新宮富美子（高27）、廣瀬弘美、富岡幸子（高35）○会場設営・案内：三成宏二（高16）、梅木隆志（高16）、岩田一志（高19）、渡辺悟、村田貢（高22）○来賓担当：押田良樹、松本耕司、渡辺悟 ○スライド制作：押田良樹、土田和男（高16）○映像音響・録音・照明：宍道弘志（高31）、新宮富美子 ○カメラ：土田和男、村田貢、達山暢（高29）、宍道弘志、富岡幸子

## 総会・講演会・懇親会 出席者

### ご来賓

	卒業期	卒業年	氏名	所属
1	高11	S35	庄 司 肇	双松会会長
2	高16	S40	金 平 憲	双松会幹事長（母衣小・附属中）
3	高26	S50	泉 雄 二 郎	島根県立松江北高校校長
4	高52	H13	佐 藤 昌 子	島根県立松江北高校教諭・双松会校内幹事
5	(講師)		宮 崎 尚 子	尚綱大学助教
6			伊 藤 征 治	近畿松江会会長（北堀小・松江一中・松江商業）
7			竹 谷 奨	近畿松江会幹事長（八束小・八束中・松江高専）
8			岡 崎 守 夫	大阪府立茨木高校校長
9			中 村 和 夫	久敬会（茨木高校同窓会）事務局長
10			岩 井 英 雅	久敬会広報委員長

### 会員

	卒業期	卒業年	氏名	旧姓	出身（小）	出身（中）	クラブ
11	中63	S18	肥 塚 隆 正		千駄谷第一	旧松中	
12	中68	S23	青 戸 元 也		島根師範付属	旧松中	剣道・テニス
13	中68	S23	荒 銀 昌 治		広瀬町	旧松中	
14	高1	S25	伊 藤 雅 義		来待	旧松中	生物
15	高1	S25	菊 田 運 三 郎		雑賀・乃木	旧松中	映画研究会
16	高1	S25	喜 多 川 治 美				
17	高1	S25	竹 内 一 郎		加茂町	旧松中	剣道
18	高1	S25	和 田 亮 介	木幡	宍道	旧松中	剣道・バレー
19	高1	S25	田 端 要 子	伊豆賀	安来		
20	高2	S26	久 保 田 幸 雄		川津	旧松中	バレーボール
21	高5	S29	春 日 敏 邦		朝日	松江三	美術
22	高5	S29	寺 本 尚 由		朝日	松江三	陸上部
23	高6	S30	田 村 稔 久		北堀	松江一	
24	高6	S30	原 卓 司		朝日	松江三	
25	高6	S30	引 野 光 夫		揖屋	揖屋・松江四	バドミントン
26	高6	S30	今 井 廸 子	入江	附属	附属	
27	高7	S31	青 戸 俊 夫		生馬	生馬	新聞
28	高7	S31	寺 本 好 弘	岩田	北堀	松江一	バスケット

## 会員

	卒業期	卒業年	氏名	旧姓	出身(小)	出身(中)	クラブ
29	高8	S32	山 崎 晃		久利(大田)	松江二	
30	高9	S33	佐藤 早智子	松村	雑賀	附属	花道・手芸部
31	高9	S33	清 水 良 子	松尾	北堀	松江一	化学分析
32	高10	S34	面 白 紘		本庄	本庄	サッカー
33	高10	S34	佐藤 菁 治		大野	大野	
34	高10	S34	佐和田 丸		頓原(飯石)	頓原(飯石)	
35	高11	S35	新谷 勇 人		北堀	附属	化学分析
36	高11	S35	太 田 厚		来待	来待	
37	高11	S35	押 田 良 樹		雑賀	松江四	軟式テニス・図書
38	高11	S35	小久江 良雄			松江四	
39	高11	S35	田 中 一 男		白濁	松江三	宍道湖一周、2・3年連続学年1位
40	高11	S35	村尾 俊 治		雑賀	松江四	絵画
41	高11(松江)	S35	石 倉 昭 子	石倉			
42	高11	S35	北 村 雅 子	矢野	津田	松江四	音楽部
43	高11(松江)	S35	佐藤 裕 子	黒沢			
44	高11	S35	田 村 迪 子	森広			
45	高11	S35	中尾 長 子	高橋	附属	附属	
46	高12	S36	萩 野 貫 悟	筒井	揖屋	東出雲(揖屋)	
47	高12	S36	斎 尾 秀 城		雑賀	松江四	生物・吹奏楽・弓道
48	高13	S37	桑 原 洋 史		熊野	附属	
49	高13	S37	永 江 幹 雄		母衣	松江二	化学分析
50	高13	S37	持 田 勲		津田	松江四	バレー
51	高13	S37	四 方 田 司		附属	附属	サッカー
52	高13	S37	藤 田 トク子	小笹	白濁	松江三	ソフト
53	高13	S37	水 田 昭 子	大村	白濁	松江三	書道部
54	高13	S37	山 下 俱 子	今井	乃木	松江三	美術
55	高14	S38	小 泉 勝 是		北堀	松江一	(山口高校へ)
56	高14	S38	木 幡 晃 正		宍道	附属	陸上部
57	高15	S39	安 達 和 彦		佐太	附属	バドミントン
58	高15	S39	金 坂 喜 好		大野	大野	
59	高15	S39	佐藤 修 介		内中原	松江一	新聞
60	高16	S40	井 上 伸 久		川津	松江二	

総会・講演会・懇親会 出席者

会員

	卒業期	卒業年	氏名	旧姓	出身(小)	出身(中)	クラブ
61	高16	S40	梅木 隆志		森山(下宇部尾分)	美保関北	陸上部
62	高16	S40	土田 和男		内中原	松江一	バドミントン
63	高16	S40	松本 耕司		本庄	本庄	陸上部
64	高16	S40	三成 宏二		附属	附属	
65	高16	S40	森藤 哲章		広瀬	広瀬	
66	高16	S40	山田 敬子	矢壁	松原(浜田)・川本・益田	益田東・浜田二・浜田高	美術
67	高17	S41	岡 久夫		法吉	松江一	陸上部
68	高18	S42	小田 一美		内中原	松江一	天文気象
69	高19	S43	岩田 一志		荒島(安来)	安来三	バレー・文芸
70	高19	S43	万波 迪義		附属	附属	陸上部
71	高19	S43	元 栄 徹	成相	飯梨(安来)	安来三	
72	高19	S43	池田 喜美代	川原	北堀	松江一	考古学
73	高20	S44	浜見 良樹		松原(浜田)	浜田二	野球部
74	高20	S44	渡辺 悟		附属	附属	ボート部
75	高20	S44	三好 資子	恩田	北堀	松江一	(帰宅部)
76	高20	S44	物種 慶子	北脇	本庄	附属	
77	高20	S44	山寄 麻里子	木村	益田・松原小(浜田)	浜田二・松江一	双曲(お琴)
78	高22	S46	内藤 清志				
79	高22	S46	村田 貢		西郷	西郷	バンド活動 早弁クラブ
80	高23	S47	朝比奈 博則		吉田(安来)	安来二	野球部
81	高23	S47	松本 潤		安来	安来一	
82	高23	S47	森脇 泰雄				
83	高23	S47	松本 幸子		母衣	松江二	バドミントン
84	高23	S47	山口 紀子	宮崎	内中原・松原(浜田)・温泉津・木次	木次・川本・松江一	生物
85	高24	S48	糸原 直彦				島根県大阪事務所長
86	高26	S50	周藤 達夫				
87	高26	S50	福間 則博				
88	高26	S50	松村 聡				
89	高26	S50	山口 彰				
90	高27	S51	新宮 富美子	新川	母衣	松江二	
91	高27	S51	松田 稚子	永島	意東	東出雲	硬式テニス

## 会員

	卒業期	卒業年	氏名	旧姓	出身(小)	出身(中)	クラブ
92	高29	S53	太田 春樹		美保関	美保関南	サッカー
93	高29(松江)	S53	達 山 暢		北堀(城北)	附属	写真・映画研究
94	高29(福岡)	S53	福本 秀一		内中原	松江一	硬式テニス
95	高29	S53	須藤 聖子		大宅(京都)	松江二	剣道
96	高29	S53	田中 年恵	森広	母衣	松江二	体操部
97	高29	S53	野津 さとみ		安来	安来一	
98	高29	S53	浜野 則子	田中	城北(法吉)	松江二	JRC
99	高29	S53	廣瀬 弘美	藤原	北堀(城北)	松江一	演劇
100	高31	S55	宍道 弘志		内中原	松江一	弓道
101	高35	S59	吉岡 浩司				
102	高35	S59	富岡 幸子	三和	七類	美保関北	

## 学生ゲスト

	卒業期	卒業年	氏名	旧姓	出身(小)	出身(中)	クラブ
103	高64	H25	宇田川 幹生		内中原	松江一	水泳
104	高64	H25	藤本 晃輔				
105	高64	H25	牧野 淳一		生馬	松江一	サッカー
106	高64	H25	楨原 尚樹				
107	高64	H25	秋月 美澄		母衣	附属	男子バレー
108	高64	H25	梅木 恵里子				
109	高64	H25	大矢 真子				
110	高64	H25	角森 果歩				
111	高64	H25	布野 可南子				

## 講演会聴講

	氏名	所属
112	田野 葉月	島根県立美術館学芸員



### 開会ご挨拶 近畿双松会 会長 押田良樹 (高11)

皆さま、こんにちは。  
このところ寒波が襲来し、  
寒い日が続いております  
中、ご来賓の方々を始め  
とし、このように沢山の

会員の皆さまにお集まりいただき、真に有り難う  
ございます。

昨年は当会の戦後の再開55周年という記念すべ  
き年でしたので、中之島の中央公会堂に150名を  
超える会員の皆様にお集まりいただき盛大に開催  
することができました。その熱気がまだ記憶に新  
しいところですが、早いものでもう一年がたちま  
した。

今年は次の60周年に向けての1年目ということ  
で、いろいろな行事をおこなってきましたが、そ

れぞれ天候にも恵まれ、皆様のご協力をいただき  
順調に開催することができましたことを、まず  
もって御礼を申しあげたいと思います。

本日は、昨年の反動でご出席者が減るのではな  
いかといささか気がかりでございましたが、蓋を  
開けてみますと110名を超えるというこのように  
沢山の皆様にお集まりいただきまして本当に有り  
難く存じております。

本日の最年長は昭和18年旧制中学63期卒の大  
先輩で、最年少は昨年卒業の高校64期の現役大学  
生に至るまで、年齢差は実に69歳の非常にユニ  
ークな同窓会になります。お時間の許す限り世代  
を超えての交流を楽しんでいただきますようお願い  
いたしまして、簡単ではありますが開会のご挨拶  
とさせていただきます。本日は有り難うございま  
した。



### 来賓ご挨拶 双松会 会長 庄司肇 (高11)

皆さん、こんにちは。  
押田会長とは同期になり  
ます。よろしく願いい  
たします。今日は、二点、  
ご報告をいたします。

今年は双松の一本が弱ってきましたので植え  
替えをいたしました。それに合わせて「北高の緑  
を守る基金」への募金をお願いしましたが、30万  
円の目標に対し、今で1,538人の方から570万円  
の多額の募金をいただきました。有り難うござい  
ました。

いちいち御礼のご挨拶を出さなければいけない  
ところですが、来年の年次会報発行の際にお名前  
を掲載して御礼に代えたいと思っておりますので、  
大変申し訳ありませんがご了承をお願いいたしま

す。また、この基金をもって今後とも双松の管理  
に万全を期してまいりたいと考えておりますこと、  
ご報告申し上げます。

また、松江では元校長で元会長でもありました  
兼折博先生(中52)が3月20日にお亡くなりにな  
り、ご葬儀に出席してまいりました。100歳のご  
長寿でいらっしゃいました。ご存じのように教鞭  
も取っておられましたので薫陶を受けられた方が  
この中にも沢山いらっしゃると思います。陸上部  
の顧問もしておられました。本当に残念なこと  
でしたがここに慎んで皆様にご報告を申し上げます。

本日は112名のご出席ということで、盛大に総  
会が開催されましたこと、ご同慶に堪えない次第  
でございます。お招きいただきまして有難うござ  
いりました。簡単ですがご挨拶に代えさせていただきます。



## 来賓ご挨拶 松江北高校 校長 泉雄二郎 (高 26)

皆さま、こんにちは。前河原校長(高23)の後任としてこの4月に着任いたしました泉雄二郎と申します。どうぞよろし

くお願い申し上げます。

まずもって、近畿双松会の第56回総会がかくも盛大に開催されましたこと、真におめでとうございます。また、総会のみならず一年間の中でさまざまな行事をおこなっておられますことを押田会長様からの情報で承知しておりますが、こういう形で皆様がつながっておられますことを大変有難いことだと思っております。

お会いになるのが一年に一回という方もいらっしゃると思いますが、この一年ご壮健にお過ごしになられたということ、大変おめでたいことだと思っております。是非、来年も再来年も、皆様こういう形で集われることを切に祈っております。

さて、近況ですがいくつか感じておりますことをお伝えいたします。

私は昭和63年度から平成9年度まで10年間、北高に勤務した経験があります。従って今春17年ぶりに母校に帰ってきたことになります。その第一印象は「えらい子供に元気がないなあ」ということでした。今日ご出席の学生諸君には申し訳ないけど正直そう思いました。彼らなりに頑張っているんだけど、チョッと覇気がないという感じがしました。

北高の歴史を振り返ってみますと、今、転換期にあるのだと思います。旧制中学が69期までありますが、新制になって今年の新入生が68期ですから、ともにほぼ70年の歴史を刻み、新制の歴史が漸く旧制に追いついたと言うことができると思います。転換期と申し上げたのは、それでは松江北高は次の70年に向かってどうあるべきか、次の一步を踏み出す時が来ているという意味で申し上げました。

二点目は、今年の新入生の生まれた年が1998年ということで、バブルが崩壊して実体経済が成長期から成熟期へ、そして右肩下がりになっていった時代で、そういう時代に彼らは育ってきたということです。先輩方も私の年代も高度経済成長時代を知っている訳ですが、彼らは知らない。そういう話をしても「いや、日本にそんな元気はないでしょう。これから先もないでしょう。」という感触の中で、彼らは16~7年を過ごしているということです。それが内在して、我々の時と違って彼らは元気がないと思うのかもしれない。

そういった若者たち、生育期の中で経済の停滞を経験し、小中学生の時期に東日本大地震を経験したという、どちらかという日本のもるくない風潮の中で育ってきた彼らを、我々の世代はどう勇気づけ、教育をして、次の時代をになうにふさわしい人材に育てていくかということが課題であると思います。これも時代がひとつの転換期にあることを物語っていると思います。

三点目は少子化問題です。現在、学年のクラスは8クラス、生徒総数は918名です。そんなに少ないのかと思われるでしょうが、赤山に移ってからの最大時は学年10クラスで1,300名でした。今はその3分の2になっているということで、これはまだまだ続きます。平成30年には松江市の中学校の卒業生の数が200名以上減るという予測があり、さらにクラス数が減るだろうと言われております。普通高校は北・南・東の三校ありますが、どこの地域ということではなく、どこの地域も減ると言われています。8クラスが7に、6になるということが暫く続くということを懸念していますが、そこにも元気のなさの要因があるのではないかと考えています。

以上のようなことから、何とか彼らを元気づけてやろうと、いろいろ新しい取り組みを始めています。今の若い子たちには、我々の時に思い描いていたような、いい大学に入っていい会社に入って幸せな生活をつかめというキャリアパスは殆ど通じません。そんな風にはうまくいかないでしょうと、彼らは現実を把握しています。

ただし、「君は社会にどう貢献しようとしているの？」と問いかければ、これには非常によく反応します。つまり自分自身が幸せになることも重要なんだけど、社会を、あるいは他者を幸せにすることが重要なんだということをおそらく彼らの成育歴の中でつかんでいるのだと思っています。そこを、彼らの活力につなげたいと考えておろまして、今年の一年生から地域課題の研究をさせています。「身近にどんな課題があるか調べてみなさい」と一年生320人を50のグループに分けて自分が気づいた課題の調査をさせ、発表させて、優れたものは市長提言をしていこうというところまで計画しています。そういうことをやらせると彼らは非常に前向きに取り組むのです。

先般、北高の卒業生で26～7歳の若者に一年生に講演をしてもらいました。学生時代に社会貢献をしたいという意識が生まれたのだと思いますが、彼は大学卒業後、単身バングラデシュに向かい、ムハンマド・ユヌスのグラミン銀行に就職し、ユヌスの弟子になります。

(注) グラミン銀行はバングラデシュにあるマイクロファイナンス機関。「グラミン」という言葉は「村 (gram)」という単語に由来。本部は首都ダッカ。ムハンマド・ユヌスが1983年に創設。マイクロクレジットと呼ばれる貧困層を対象にした比較的低金利の無担保融資を主に農村部で行っている。銀行を主体として、インフラ・通信・エネルギーなど、多分野で「グラミン・ファミリー」と呼ばれる事業を展開している。2006年ムハンマド・ユヌスと共にノーベル平和賞を受賞。

彼は、いろいろな事業に取り組み、失敗もして一度帰国しますが、バングラデシュの貧困を自分の力で少しでも救いたいという思いから、再び現地に渡って高校生、中学生対象のある事業を起こし、それなりの成功体験を得て、そして今、彼は日本にいます。バングラデシュだけでは、自分の視野がせまくなるのではないかと思い、国際的な情報企業の日本法人に勤めています。

生徒たちはこういう若者に魅力を感じるようで、彼の講演後、地域課題に取り組んだ一年生が物々しく沢山の質問をしました。講演が終わった後も質

問攻めでいつまでもこの若者を離しませんでした。彼らが求めている一つの生きざまとしてこういう姿があることを、また地域に貢献すること以外に、グローバルな課題を解決したいと思う子どもたちが沢山いるのだなということ強く感じました。

こういうことから、地域課題研究のみならず、高校のグローバル化、世界にも目を向けるような教育を展開してまいりたいと考えています。先輩の皆様にはグローバルにもさまざまな活動、活躍をしておられる方が多数いらっしゃると思いますので、どうぞお力添えをいただきますようよろしくお願いいたします。

長くなりましたが、皆さまご承知の校訓の「質実剛健」も昔の「質実剛健」と今は違うんだ、と私は思っています。「質」は自分自身の中身をしっかりと構築していくことだと思います。「実」と言うのは、自分自身のこともあるけれど、社会をよりよくしていくためのアクションを起こしていくという「行動力」であろうと思います。「剛健」は文字通り少々のことにはめげないタフネスさであろうと思います。さまざまなご意見があろうかと思いますが、「質実剛健」とは私はそういう意味だと思うということを生徒たちには語り続けているところです。

最後になりましたが、先輩たちの存在は生徒たちを支えるとても大きな力になります。松江にお帰りになった時には是非赤山にお出でいただいて、生徒たちに声をかけていただければ有難く存じます。

これをもって、ご挨拶とご報告とさせていただきます。本日の総会、真におめでとうございました。

### 会長退任のご挨拶

近畿双松会 会長  
押田良樹 (高 11)

私、平成 21 年のこの総会において会長を仰せつかりました。凶らずも長く在任することになり、今年で満 5 年を迎えることになりました。

そろそろ、次代にバトンタッチしなければと思い、この一年、あれこれ考えてまいりました。そして、先ほどの総会議事で辞任を認めていただき、後任会長に松本耕司事務局長 (高 16) を承認いただき、漸く肩の荷をおろしたという思いでございます。有り難うございました。

この 5 年間、会長という大役にはふさわしいところをあまり持ち合わせない私でしたが、会員、そして役員の皆様に支えられて何とか務めてまいりました。高い席からではございますが、皆様には重ねて厚く御礼を申し上げます。

松本新会長は皆様ご承知のとおり、長く会の運営に関わっていただいております。適任でいらっしゃると思いますので、近畿双松会も益々発展していくものと期待しております。

私にとって、近畿双松会は「心のオアシス」であったという表現をさせていただきたいと思いますが、これからも精々オアシスに立ち寄らせていただき、いい気分にはひたりたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。有り難うございました。

### 会長新任のご挨拶

近畿双松会 新会長  
松本耕司 (高 16)

先ほど、新しく会長を仰せつかりました 16 期の松本でございます。第一次近畿双松会の始まりは大正の末とも聞いておりますので数えてみれば約

90 年、昭和 33 年の戦後の再開からを第二次とすればそれだけでも 56 年の長きにわたり、近畿双松会はこの地において先輩皆様のご努力により歴史の糸を紡いできたこととなります。

この会を何とか次代につないでいくために、私も微力を尽してまいりたいと考えておりますので、引き続き会員の皆さまからのご指導、またご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 2014 (平成26)年度 松江北高十大ニュース (日付順)

(注)この記事は黒田克司教頭に特別制作のご協力をいただきました。

### ◆国立大学(現浪計) 202名合格：平成26年3月31日

東京大学4名、京都大学4名、国立大学医学科7名を含む、202名の生徒が国立大学に合格しました。

また、私立大学の合格者は、延べ349名でした。



放課後の自習

### ◆泉雄二郎校長就任：4月1日

河原一朗校長が定年退職となり、4月より第23代校長として泉雄二郎校長が着任しました。

河原校長に続く双松会(26期)の校長であり、教育重点目標としての次の4点を定め、学校経営に取り組んでいます。

- ・丁寧に向き合うことにより自己肯定感を高める
- ・授業改革により主体的学習態度を確立する
- ・部活動により学校を活性化する
- ・キャリア教育・地域連携により社会貢献意識を喚起する



### ◆双松の植樹祭：4月12日

平成25年4月に双松候補として認定された松(校門付近の松)の植樹(移植)を行いました。当日は、松本前双松会会長、庄司会長、金平幹事長の御参加のもと、(有)足立農園社長の指揮により無事移植が行われ、田原神社宮司により植樹祭(お祓い)をしていただきました。

双松が若々しく復活した姿に、感動を覚えるとともに、未永く北高を見守ってくれるよう願っています。

なお、「赤山の緑を守る基金」へいただいたご寄付は目標を上回り、約600万円となりました。有り難うございました。



### ◆第52回鳥根県高等学校総合体育大会：5月30日～6月7日

各々がこの大会を目指して全力を尽くして健闘しましたが、男子第4位、女子第4位、総合第4位の結果でした。その中でも、男子バドミントン部、陸上競技部、女子ボート部、弓道部、女子テニス部、男子登山部はインターハイ(南関東総体2014)への出場権を獲得しました。



### ◆国際高校生フォーラムin倉吉で最優秀賞：8月2日～4日

鳥取県立未来中心を会場として開催された『第13回国際高校生フォーラム』において、『高校生が考える21世紀の医療～限りなく発展する医療技術と生命倫理を架橋せよ～』をテーマとして参加校の発表が行われました。本校は「A Project That Makes Babies Happy」というタイトルで発表を行い、岡山操山高校、米子東高校、倉吉東高校、松本深志高校、長崎東高校、大韓民国安養高校、そして本校の7校のうち、最優秀賞を受賞しました。



### ◆文化部2部が全国大会に出場 総文祭：7月27～日7月31日

次の3部が『第38回全国高等学校総合文化祭』に出場しました。

- ・囲碁・将棋部(男子団体)
- ・百人一首かるた部
- ・美術部(立体デザイン部門)

また、放送部(朗読部門)は『第61回NHK杯全国高校放送コンテスト』に出場しました。



## ◆藤原和博先生によるワークショップ：10月14日

元リクルートフェロー、東京都初の民間人校長(元杉並区立和田中学校長)であり、現在は教育改革家としてご活躍の藤原和博先生を講師に迎え、「情報編集力を高めるワークショップ」を開催しました。

1年生を対象として「ハンバーガー店の店長になってみよう&流行る店、流行らない店」をテーマに議論して、情報をどのようにとらえ、どのように組み合わせ、発展させ、何を導き出すかという情報編集力を高めるためのワークショップです。身につけた力を、これに続く「地域課題研究」において、発揮させるためのものですが、生徒たちは大変意欲的に取り組んでいました。



## ◆地域課題研究

### フィールドワークリサーチ：10月15日～17日 成果発表：10月30日

地域が抱えている課題を知り、その解決策を考える過程で、社会と自らのつながりを認識させ、成果発表を通してコミュニケーション能力を高める活動で今年度から始めました。

5、6人程度の班でテーマを決めて、校外での調査や取材を通して自分たちなりの解決策の発表へとつなげる学習です。生徒は発表する側と他の班の発表を聞く側の両方を経験し、「地元の活性化」、「定住」、「観光」など多様なテーマで発表しました。最優秀となった班は、3月に開催される松江市ボランティアフェスティバルに出場して発表を行う予定です。



## ◆施設設備：平成26年1月31日

施設の整備がいくつか進み、快適な環境が整ってきました。

⇒竣工日：①7月19日 ②8月26日 ③10月31日(陸上)・12月10日(野球) ④12月12日 ⑤平成27年2月3日

- ①管理棟リフレッシュ工事
- ②第一グラウンド照明増設工事(4基→8基)
- ③陸上競技部、野球部の部室及び屋外トイレ建替え工事
- ④武道場天井改修(老朽天井の撤去、照明増設)
- ⑤第1・2体育館及び寄宿舎漏水対策工事(台風による漏水被害の補修)



## ◆教室のICT化進む：未定

島根県教育委員会の「ICTの活用による新たな学び推進モデル事業」により、本校のホームルーム全てと特別教室にプロジェクター、実物投影装置を常設整備することになりました。また、3台のタブレット端末の整備も併せて決定しております。

新しい時代に必要となる資質・能力の育成のために「主体的・協働的な学び」の充実が求められていることから、本校が島根県において先陣を切って活用を進めてまいります。





中63・68期・高1・2・5・6・7・8・9・10・31期の皆さん



高11・12・13・14・15・17・18期の皆さん



高 16・19・20・22・23・35 期の皆さん



高 24・26・27・29・64 期（学生ゲスト）の皆さん

## 期別テーブル写真



ご来賓の皆さん



高 11 期の皆さん



中 63・68 期・高 1 期の皆さん



高 12・13 期の皆さん



高 2・5・6 期の皆さん



高 14・15・17・18 期の皆さん



高 7・8・9・10 期の皆さん



高 16・31 期、ご来賓の皆さん



高 1・19・20 期の皆さん



高 24・26・27 期の皆さん



高 22・23・35 期の皆さん



高 29 期の皆さん



学生ゲスト (高 64 期) の皆さん

# 懇親会スナップ写真





## 川端康成の茨木中学校時代の恩師 「倉崎仁一郎(松江中7期)」の真実

尚綱大学 宮崎尚子



皆様こんにちは。ご紹介にあずかりました宮崎尚子でございます。甚だ僭越ではございますが、川端康成と松江の繋がりについてお話をさせていただきます。川端の恩師で倉崎仁一郎という松江の偉人について知ってくだされば幸いです。



倉崎仁一郎

倉崎は明治元年に松江市北堀町に3人兄弟の次男として生まれました＝注1。明治19年に松江中学を優秀な成績で卒業をし、佐賀の中学教師を経て、明治28年に加藤逢吉校長の招きに応じて茨木中学校に着任し、大正6年に脳溢血で亡くなるまで勤めています。

### ●講師紹介

宮崎尚子しょうけいさんは大分県出身で熊本の尚綱大学文学部を卒業後、熊本大学大学院文学研究科修士課程、九州大学大学院比較社会文化研究科後期博士課程で学び、尚綱高校教諭等を経て現在尚綱大学言語学部助教を務めておられます。

宮崎さんは大学1年の時に川端康成の魅力を知り、川端文学の原点ともいえる茨木中学の生徒時代に注目して、当時の生活、学業成績、茨木中学の特異な教育方針の影響などを精密に研究しておられます。この数年は何度も茨木高校に足を運び、当時の同窓会会報や学業成績表などの資料を読み込み、川端の中学生時代の実像を明らかにしてこられました。

その研究の過程で、若き日の川端康成に大きな影響を与えた松江中学出身の英語教師倉橋仁一郎くらはし じいちろうの存在を知り、その実像の解明に努めておられます。

我々としても、初めて知ったこの偉大な先輩倉崎仁一郎についてもっと多くのことを知りたく思い、また、

教頭に次ぐ立場でした。倉崎を知った経緯を説明致します。

### 川端文学の源流を求めて茨木高校へ

国語科教育法を担当している関係上、川端の受けた国語教育について調べようと思いました。平成23年、最初に手にしたのが茨木高校の百年史でした。川端は明治45年から大正6年までの在籍で、百年史の大正期を担当されたのが本日こちらにいらっしゃいます久敬会（茨木高校同窓会）の岩井英雅先生です。とても詳細に書かれていてパイン的に使用しておりました。

資料室に入って調べますと、川端が中学5年の時、恩師の葬式について書いた文章が雑誌「団欒」に掲載されたものの雑誌の現物は見つかっておらず、全集にも所収されていないことを知りました。

宮崎さんの研究のお手伝いを兼ねて、その事績について種々の調査を実施しているところです。

ところで、松江中学と茨木中学の縁は、川端康成と倉崎仁一郎の関係にとどまりません。

明治28年の茨木中学創立時から足掛け27年の長きにわたって校長を務めた加藤逢吉先生は、明治19年5月から12月まで松江中学の教師をしていたのです。倉崎は19年春に卒業しましたが、母校の教諭助手を務めています。この短い間に加藤先生は倉崎の人となり認め、9年後、茨木中学の校長に就任するにあたって、新たに理想とする学校運営をしていく同志として、当時佐賀中学の教諭をしていた倉崎を呼び寄せたのです。

そういうご縁もあり、本日は茨木高校の岡崎守夫校長先生と久敬会の中村様、岩井様にもご出席をいただきました。

100年を超える歳月を経て両校の間に新しいご縁が結ばれることを願う次第です。 押田良樹(高11期)



宮崎さんが見つけた雑誌「団楽」



「団楽」に掲載された川端の作品



若き日の川端康成

これをもとに、昭和2年「キング」に「倉木先生の葬式」、昭和24年「東光少年」に「師の柩を肩に」が発表されました。大変思い入れの深い作品であるのに、最初の物が見つからないことが意外でした。

倉崎は大正6年1月に亡くなっています。大正7年の川端の日記には「団楽」に載ったと回想していますので、大正6年の出版に違いない。葬儀は1月末、4月は卒業後。恐らく大正6年3月だろうと目星をつけて探して

おりましたら、運よくこの号の「団楽」を見つかることが出来ました＝注2。題名は「生徒の肩に柩をのせて」でした。

### 前代未聞の生徒葬——敬愛された倉崎先生

前代未聞の生徒葬でした。先生の柩を、5年間受け持たれた88人の生徒全員で自宅から葬儀場、葬儀場から火葬場と運ぶ葬列です。大変な評判だったそうでその時の写真が茨木高校の資料室に残っていました。その後、昭和7年の同窓会報で倉崎の遺影を確認しました。十七回忌の記事です。卒業生たちになお慕い続けられたということです。

倉崎は川端の学年を5年間受け持ちました。茨木高調査2年目では生徒日誌や教室日誌を調査し、倉崎が他学年の生徒たちからも尊敬され、大変慕われていたことが分かりました。その中には社会評論などで活躍した大宅壮一もいます。面倒見のよい先生で生徒の事を家族のように思っていまし

た。生徒の人生に寄り添うという美学がありました。倉崎は英語の先生でした。そこから川端は英語好きになった事も分かっています。倉崎の英語の専門性は高く、教科書も作成するほどでした。上級学校から引き抜きの話もあったようですが、生徒たちの嘆願書が出て茨木中学に残ったと伝わっています。

川端は中学3年生の段階で家族が死に絶えています。金銭的にはさほど困りませんでしたが精神的には「孤児」の意識が強かったようです。そういった時に接している倉崎を親のように慕っていたのは間違いありません。事実川端は「倉崎先生ほど私に感銘の深い教師は一人もなく、倉崎先生に対するほど私がよい生徒であったことは一度もない」と評価しています。川端文学の形成に大きく関わる人物と言えるでしょう。

「生徒の肩に柩をのせて」は「大阪府立茨木中学校五年生 川端康成」という肩書きで掲載されています。雑誌「団楽」の主宰は石丸梧平。茨木中学校を



場動運校集中木茨立府阪大  
茨木中学校運動場

卒業こそしていませんが、優秀な成績で在籍していました。特別な思い入れがあり川端の文章を掲載したと思われます。「団欒」は与謝野晶子、平塚雷鳥、齊藤茂吉、若山牧水、小川未明らが名を連ねており、その中に中学生の文章が巻頭に写真入りで抜擢されるのは大変異例なことでした。

久敬会の追悼号（死去1年後に発行）によります



生徒葬の様子



倉崎仁一郎の墓

と、石丸が感動した生徒葬は、近代水泳で有名な杉本傳<sup>つた</sup>教諭の授業で行われた学年会の中で生徒たちにより決議されました。近代水泳発祥の地でもある茨木高校ですが、日本初のプールがこの時完成しています。生徒の共同作業によるものでした。倉崎先生の棺を運ぶことを決めたのも生徒たちでした。

倉崎の通夜は一旦帰宅した88名全員が集まったそうです。読経した寺の跡取り息子たちの中には、あのザビエル像を発掘した藤波大超もいました。柳行李の中にあつた初代校長加藤逢吉先生寄贈のアルバムからは倉崎と少女が並んだ写真を見つけました＝注3。資料室は宝の山でした。

以上の事を苦勞して調べ上げたのですが、私の茨木高調査3年目で新しく着任された校長の岡崎守夫先生とお会いし、久敬会の方と引き合わせてくださいました。そこには今日いらっしやっている中村和夫・久敬会事務局長や、「茨高の生き字引

と言われる岩井先生も同席されました。川端研究家垂涎の貴重資料を惜しげもなく披露して下さり、大袈裟かもしれませんが2年かかった内容が5秒で解決した瞬間でした。これが同窓会の底力と痛感いたしました。

### 倉崎の故郷・松江への旅

倉崎が松江中学出身であることは追悼号で知っていましたから、続いて松江中学の調査を開始しました。松江北高校に問い合わせをしましたが、残念ながら火災で資料は焼失したということでした。その時思いだしたのが久敬会という同窓会の存在で、「資料が無いなら口伝で情報が得られるかもしれない」と、近畿双松会事務局に問い合わせをしたら、後日松本耕司事務局長から電話をいただくことができました。そこからはとんとん拍子でした。押田良樹会長はまったくの別件で楽山焼元祖倉崎権兵衛の名を知られたばかりの時だったので、同じ「倉崎」の名前に興味をそそられ、同期生で松江市在住の石倉昭子様に連絡されました。石倉様は驚異的なネットワークをお持ちで、これからお話しする事実を次々と突き止めることが出来たのです。

連日メールで届く新情報や、押田会長と石倉様とのやりとりがあまりに盛り上がりましたので、これは是非一度お会いせねばと今年の2月に松江まで押しかけ、それまでの調査でルーツが同じだったことが判明していた楽山焼倉崎権兵衛の子孫で倉崎家当代のお嬢さんを交えての会食が実現しました。このお嬢さんも石倉様の御主人の教え子でいらっしやいました。

さらに倉崎について分つた内容です。倉崎は明治19年、松江中学で物理教師であった加藤逢吉と出会います。押田会長情報によると、松江中学の同窓会設立に関わる提案書を書いた人物として松江北高等学校百年史に載っています＝注4。交友関係は広く、小泉八雲が敬愛した西田千太郎とも親交があつたことが『西田千太郎日記』で確認できました。脚本家で知られた伊原青々園とも深い交流がありました。小泉八雲がほれ込んだ松江の人々、その”心の琴線”に触れる日本人的な精神を倉崎も持っており、川端は倉崎の生き方の中に「美しい日本」を見出したのだと思います。八雲と川端の共通点に就いても今後考察していく予定です。



さて、葬儀に参列した遺族ですが、追悼号では一部しか分かりませんでした。石倉様のご協力の下、名前や年齢まで詳細に判明しました。残念ながら倉崎の直系の子孫は見つかっていませんが、兄金之助と弟清、長女シヅの嫁ぎ先の子孫の方とはそれぞれ連絡が取れ、資料も提供していただきました＝注3。

### 次々埋まる歴史の空白

今年の夏、4回目の茨高の調査には押田会長と石倉様も同行されました。落ち合った日の夜、松本事務局長や押田会長の同期生、田村迪子様も来られました＝写真下。初めてお会いする方ばかり



なのに、すぐに輪に入れてくださいました。翌日、久敬会と双松会の歴史的な交流が実現しました。このコーディネートをしてくださったのも久敬会

中村事務局長です。

翌日は押田会長の車で松江まで連れて行ってくださり、松江にしばらく滞在して小泉八雲と倉崎仁一郎の関係の合同調査をしました。私の厚かましさも相当なものです。双松会の皆様のご親切も桁外れです。

茨木市の本源寺にある倉崎と妻寿恵の墓は当時の久敬会が建てたものです。遺児たちへの金銭的な援助も川端の学年を中心に長期的に続けられたようです。3年のうちに両親を亡くした

遺児たちの近況は久敬会の会報に掲載されています。

寿恵の死により孤児となった遺児の悲劇的な境遇を耳にしたことで川端が自身の境遇を再認識し、具体化していなかった孤児に対する感情が具体性を帯びてきました。現に孤児をモチーフにした作品は全部で38作品ありますが、このうちの7割が倉崎仁一郎十七回忌までに書かれています。

以上のような研究結果で判明したのが次の三つです。一つは川端文学の原点である「孤児根性」の生成過程を確認できたこと。二つ目は川端が感動した倉崎仁一郎の松江的な思いやり、つまり日本的な美を確認できたこと。そして三つ目「褒めること」には教育的効果があるということです。作文の53点で自信喪失していた川端が、「団欒」に載ったことで自信を得ました。心の琴線に触れる「美」が文学だと学びました。その結果、第一高等学校では作文の成績は最高点を取ることになります。

最後に「継承される心の教育」についてお話しします。今回私の研究がこのような成果をあげられたのは、ここにいらっしゃる両同窓会の方々のお力添えがあったからです。部外者の人間でも無条件で温かく受け入れてくださって、わが事のように親身に協力してくださいました。今回の研究は同窓会の方々がいらっしゃらなかつたら実現しなかつたことばかりです。そして親身になる、協力を惜しまない、人の喜びの為に尽くすという点でよく似ている両同窓会です。

## 日本の美、人のつながり、同窓会の底力

倉崎は川端を含めた生徒たちに、日本的な美を伝えました。それが川端康成文学にも流れています。この調査で私自身が学んだことがあります。それは人のつながりの大切さと同窓会の底力です。これは川端の「生徒の肩に柩をのせて」でも言えます。無名の中学生の文章が雑誌掲載されたのは同窓の繋がりもあったからです。茨木中学での体験や人の繋がりが無ければ、作家川端康成の文学はもっと違ったものだったかもしれません。

人は一人でも生きる事は出来ませんが、何事か成し遂げようとする際には人の協力が不可欠です。同様に歴史的な資料はそれだけでは価値を持ちませんが、人が介在することによって初めて輝き出すのです。

本日ご出席の現役学生のみなさん、部外者の私でさえこれだけ協力して下さる同窓会です。まして同窓生であればその力は「推して知るべし」です。双松会は今後みなさんにとって貴重な財産になる事は間違いありません。

出雲大社は本来、個人的なものではなく国と国等大きなものの縁を結ぶものだと聞いています。今回、119年ぶりに両同窓会の縁が結べましたのは、2月に参拝した出雲の神様の引き合わせがあったからかもしれません。ご協力いただきました多くの皆様に感謝申し上げます。それではこれで発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

### 注1

宮崎さんが倉崎の生家が松江市北堀町だったことを知ったのは、金之助（仁一郎の兄）の子孫から提供された資料からだった。調査に協力した石倉昭子さんが松江市立図書館で明治初年の住宅地図を探し当て、倉崎家が北堀町の新橋にほど近い堀端にあったことを拡大鏡で確認した。

### 注2

存在が知られながら現物が発見できなかった雑誌「団欒」を宮崎さんが愛知県の名古屋市で見つけ出したのは平成23年8月。翌24年2月に新聞各紙に「幻の文書発見」などと大きく掲載された。川端康成記念会の川端香男理事長は「永年の宿題が一つ解けた感じがいたします」との感謝の言葉を寄せている。

### 注3

葬儀に参列した遺族（宮崎さんの調査で詳細が判明。写真の人物たちも特定された）を次頁に別記する。

### 注4

松江北高等学校百年史（昭和51年12月発行）130Pに同窓学生会設立願書（明治19年5月）全文が掲載されている。更に168Pには倉崎仁一郎の、166P、544Pには松江中学教諭だった長兄金之助の事績が記載されている。

## ●講演を聴いて

双松会関係以外の方を講師にお招きするのは「空前」かどうかは分かりませんが、近年では例がなく、ある意味冒険でした。しかし、これほど打ってつけの講師および演題はなかったのではないかと、講演を聴きながらそう確信しました。

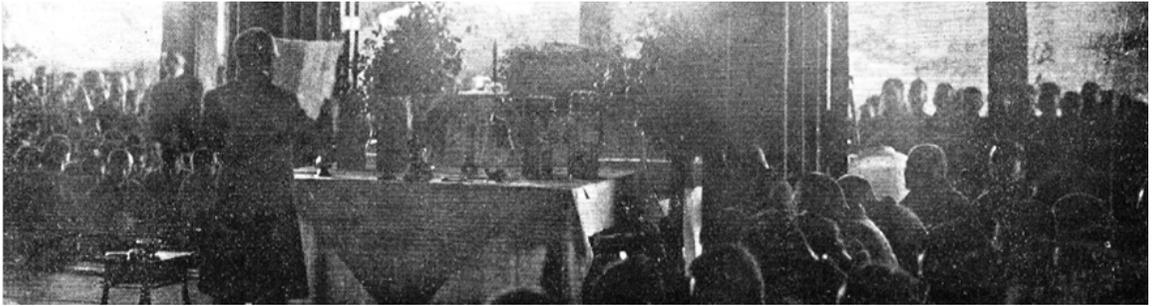
パワーポイントを駆使しながらのお話はテンポよく実証的、かつユーモアたっぷり。川端康成に我々が先輩倉崎仁一郎がどれほど大きな文学的、人間的影響を与えたかというテーマを軸に、宮崎さんと近畿双松会、宮崎さんと茨木高校、松江中学と茨木中学……と不思議な縁をめぐる数多くのエピソードがちりばめられ、美しい

マトリョーシカ（入れ子人形）が次から次へと飛び出してくるようでした。

そして講演の締めくくりは「日本の美、人のつながり、同窓会の底力」。さすがの構成だと感服した次第です。

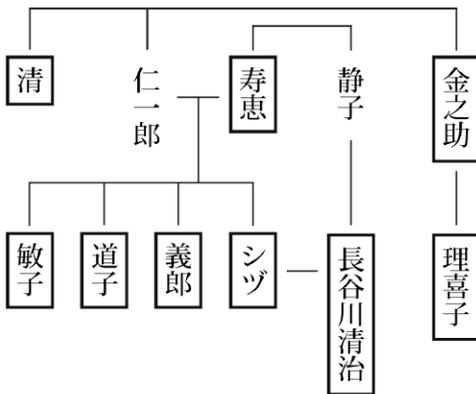
そうした講演を紙上で再現すべく努めましたが、紙幅の関係もあり、かなりの割愛・圧縮と一部構成変更を余儀なくされました。個別のファクトの発見、発掘こそが「認識」の拡張につながり、歴史をより豊かなものにしていくのであれば、今回はそれを損ねた恐れなしとします。宮崎さんはじめ関係各位、聴講された皆様のご理解を賜りましたら幸いです。

渡辺 悟(高20期)



倉崎仁一郎の葬儀

### 葬儀に参列した遺族



**兄金之助** 松江中学卒（4期）、母校の英語教師で最初に小泉八雲の文章を教材として使った人物。

**弟清** 松江中学卒（20期）、軍人（当時陸軍大尉、のち少将）。後に未亡人になった奥さんに倉崎権兵衛直系子孫の当代が養子縁組をして倉崎家の名を継承した。今回の調査で判明。  
**妻寿恵** 仁一郎の三年後に死去。

**長女シヅ**

**シヅの夫長谷川清治**（シヅとは母同士が姉妹のいとこ）松江中学卒（28期）。葬儀の時点では釜石製鉄所勤務だったが、同年満鉄の撫順炭鉱に転じ、のち液化石炭（オイルシェール）の開発で恩賜発明賞を受賞。

**長男義郎** 茨木中学出身。川端の二級上。

**次女道子** 師範学校。

**三女敏子** 加藤校長のアルバムの少女が、親族が保管していた敏子の写真と一致。

**姪理喜子** 兄金之助の長女。



清



寿恵



理喜子



金之助



敏子



道子



義郎



シヅ

## 総会議事(1) 2013～14(平成25～26)年度 近畿双松会活動事業報告

### 2013年度

4月	1日	(月)	平成25年度事業・会計開始・新会則の施行
	7日	(日)	平成25年度事業計画ならびに平成24年度「会報」の発送
	21日	(日)	第6回落語鑑賞会(高槻亀屋寄席・参加19名)
5月	29日	(水)	第33回ゴルフ懇親会(参加16名、於:武庫ノ台CC)
6月	9日	(日)	荒井悦加さんが第97回日本陸上競技選手権女子3000m障害で二連覇を達成
7月	7日	(日)	事務局会議開催(55周年行事・福引き大会対象産品調査検討)
	21日	(日)	第8回文楽鑑賞会(参加20名、於:国立文楽劇場)
9月	7日	(土)	事務局会議開催(55周年行事・福引き大会対象産品調査報告)
	29日	(日)	第8回歴史ウォーキング”新嶋八重の足跡in京都”(参加32名)
10月	4日	(金)	平成25年度設立55周年記念総会の案内を発送
	20日	(日)	(台風のため中止)第3回里山歩くぞハイキング”能勢の棚田”
	31日	(木)	事務局会議開催(55周年行事 大福引き大会最終調整)
12月	1日	(日)	会計決算書監査(平成24年10月～平成25年9月)
	”	”	事務局会議開催(55周年総会・講演会・懇親会の最終打ち合わせ)
	8日	(日)	平成25年度「設立55周年記念総会・講演会・謝恩懇親会」 於:大阪市中央公会堂、参加者はゲストを含め153名 記念講演は古瀬誠氏(高16) 榊山陰合同銀行会長 演題は「企業の社会貢献活動～私の経営理念～」 (謝恩懇親会では郷土の産品の大幅引き大会を実施)
	”	”	55周年記念会報の編集開始
1月	6日	(月)	臨時正副会長会議(新年度の方針についての意見交換)
	17日	(金)	事務局会議新年会開催(新年度役員懇親会準備)(参加16名)
	31日	(金)	平成26年度新年役員懇親会(参加16名) (55周年事業の総括、新年度(新しい5年へ)の方針審議)
3月	31日	(月)	平成25年度設立55周年「記念会報」の発行
	”	”	平成25年会計年度終了

### 2014年度

4月	1日	(火)	平成26年度事業・会計開始
	2日	(水)	事務局会議開催(新年度事業計画検討)
	5日	(土)	第7回落語鑑賞会(毎日新聞社和室・参加18名)
	20日	(日)	平成26年度事業計画ならびに設立55周年「記念会報」の発送
5月	29日	(木)	第34回ゴルフ懇親会(参加11名、於:武庫ノ台CC)
7月	20日	(日)	第9回文楽鑑賞会(参加29名、於:国立文楽劇場)
	26日	(土)	事務局会議開催(総会骨子検討)
9月	28日	(日)	第9回歴史ウォーキングin姫路”軍師官兵衛”(参加23名)
10月	2日	(木)	平成26年度総会懇親会の案内を発送
	19日	(日)	第4回里山歩くぞハイキングin奈良”白毫寺～円照寺”(参加19名)
11月	30日	(日)	事務局会議開催(総会懇親会最終打ち合わせ)
	”	”	会計決算書監査(平成25年10月～平成26年9月)
12月	7日	(日)	平成26年度「総会・講演会・懇親会」於:中央電気倶楽部、参加者はゲストを含め112名 ①押田良樹会長(高11)が常任顧問に、松本耕司事務局長が第9代の会長に就任 ②講演は宮崎尚子氏(尚綱大学助教) 演題は『川端康成の茨木中学校時代の恩師「倉崎仁一郎(松江中7期)」の真実』
	”	”	平成26年度「会報」の編集開始
1月	10日	(土)	事務局会議新年会開催(新年度役員懇親会準備・参加23名)
	24日	(土)	平成27年度新年役員懇親会(新年度方針確認・参加17名)
	15日	(日)	事務局会議開催(予定、新年度具体方針協議)
3月	22日	(日)	第8回落語鑑賞会(予定)
	31日	(火)	平成26年度「会報」の発行(予定)
	”	(火)	平成26年会計年度終了

総会議事(2) 2014(平成26)年度 近畿双松会 会計決算書①

2013(平成25)年4月1日～2014(平成26)年3月31日

(単位:円)

収入の部		支出の部	
◎ 前期繰越金	2,143,531	◎ 支出計	2,849,723
◎ 収入計	2,501,900	・ 通信費	292,140
・ 平成25年度運営費支援助入	780,000	・ 印刷費	202,965
・ 同、55周年記念事業寄付・広告収入	345,500	・ 事務費	146,929
・ 平成25年度55周年記念総会参加費	1,018,000	・ 郵便、銀行手数料等	29,150
・ 平成25年度諸行事参加費収入	308,400	・ 平成25年度55周年総会費	1,044,070
・ 平成26年度役員会会費	48,000	・ 同、福引き景品費	451,018
・ 雑収入	2,000	・ 同、双松会本部寄付	100,000
		・ 平成24年度会報費	289,630
		・ 平成25年度諸行事支払い	231,306
		・ 平成26年度役員会会議費	62,515
		◎ 次期繰越金	1,795,708
		・ 内訳	
		(郵便貯金振替残)	1,632,195
		(郵便貯金)	10,000
		(現金)	153,513
◎ 総合計	4,645,431	◎ 総合計	4,645,431

上記のとおり報告いたします。

事務局長(副会長) 松本 耕司 ㊟

監査の結果、正確に処理・記帳されていることを認めます。

2014(平成26)年11月30日

監事 梅木 隆志 ㊟

監事 物種 慶子 ㊟

総会議事(2) 2014(平成26)年度 近畿双松会 会計決算書②

2014(平成26)年4月1日～2014(平成26)年9月30日

(単位:円)

収入の部		支出の部	
◎ 前期繰越金	1,795,708	◎ 支出計	946,675
◎ 収入計	895,241	・ 通信費	149,902
・ 平成26年度運営費支援助収入	571,000	・ 印刷費	99,900
・ 同、寄付・広告収入	239,000	・ 事務費	31,337
・ 平成25年度諸行事参加費収入	84,550	・ 郵便、銀行手数料等	22,216
・ 雑収入	691	・ 平成25年度55周年記念会報費	553,704
		・ 平成26年度諸行事支払い	89,616
		◎ 次期繰越金	1,744,274
		・ 内訳	
		(郵便貯金振替残)	1,315,735
		(郵便貯金)	200,000
		(現金)	228,539
◎ 総合計	2,690,949	◎ 総合計	2,690,949

上記のとおり報告いたします。

事務局長(副会長) 松本 耕司 ㊟

監査の結果、正確に処理・記帳されていることを認めます。

2014(平成26)年11月30日

監事 梅木 隆志 ㊟

監事 物種 慶子 ㊟

# 総会議事(3) 2014(平成26)年度 近畿双松会役員

2014/12/7 総会承認

役	期	氏名	役	期	氏名
常任顧問	高7	山本 雅昭	(新) 幹事	高17	岡 久 夫
(新) 常任顧問	高11	押田 良樹	(新) 幹事	高18	小田 一美
(新) 会長	高16	松本 耕司	常任幹事	高19	岩田 一志
副会長兼			幹事	高19	池田 喜美代
(新) 事務局長	高20	渡辺 悟	(新) 常任幹事	高20	山崎 麻里子
副会長	高23	松本 潤	常任幹事	高22	村田 貢
(新) 副会長	高20	三好 資子	(新) 幹事	高23	松本 幸子
監事	高16	梅木 隆志	幹事	高24	岩間 令道
監事	高20	物種 慶子	幹事	高24	糸原 直彦
常任幹事	中68	荒銀 昌治	幹事	高26	福間 則博
幹事	中68	青戸 元也	(新) 幹事	高27	新宮 富美子
幹事	高1	荻田 運三郎	常任幹事	高29	廣瀬 弘美
幹事	高2	久保田 幸雄	幹事	高30	千葉 潮
幹事	高3	緒形 公士	常任幹事	高31	穴道 弘志
常任幹事	高5	山田 稔	幹事	高31	小林 満
幹事	高6	田村 稔久	幹事	高31	西村 英明
常任幹事	高7	廣政 俣彦	幹事	高32	藤本 斉子
幹事	高8	山崎 杲	幹事	高32	浅沼 吉正
幹事	高9	清水 良子	幹事	高32	木村 滋樹
常任幹事	高10	佐和田 丸	幹事	高33	柳井 利明
幹事	高11	田中 一男	幹事	高34	細田 昌幸
幹事	高12	萩野 貫悟	(新) 幹事	高34	山岡 雅仁
幹事	高13	四方田 司	常任幹事	高35	富岡 幸子
常任幹事	高14	加藤 巡一	幹事	高36	森口 次郎
常任幹事	高15	金坂 喜好	幹事	高43	安達 宏昭
幹事	高15	安達 和彦			以上 52 名
常任幹事	高16	土田 和男	◆ 退任		
幹事	高16	三成 宏二	幹事	高17	山根 律郎
			幹事	高23	橘 千里
			幹事	高27	木田 京子
			幹事	高29	石橋 敏幸

## 2014 (平成26) 年度 運営費支援者ご芳名

### 平成26年度「運営費支援、寄付・広告」ご協力者ご芳名 (順不同・敬称略)

・中62期	吉田 祝雄		築 武夫		佐藤早智子
・中63期	肥塚 隆正		山田 稔		篠田いづみ
・中65期	中西 利昭	・高6期	荻野 克彦		清水 良子
・中66期	水野 堯之		田村 稔久		田中 紘子
・中68期	青戸 元也		永江 秀一	・高10期	天野 正彦
	荒銀 昌治		引野 光夫		石倉 末広
	吉岡 孝夫		森岡 敏真		面白 紘
・中69期	杵築 武彦		荒木タミ子		佐藤 菁治
・高1期	飯塚 満男		今井 迪子		佐和田 丸
	伊藤 雅義		小室 ナオミ		清水 義男
	宇藤 二男丸	・高7期	青戸 俊夫		清水 小枝子
	荻田 運三郎		犬山 智保三	・高11期	新谷 勇人
	喜多川 治美		高井 和彦		太田 厚
	杉本 禮三		寺本 好弘		小久江 良雄
	竹内 一郎		廣政 俣彦		押田 良樹
	永松 良夫		山本 雅昭		神門 英明
	林原 信光		泉 桂子		後藤 武久
	平山 武秀		篠原 泰子		田中 一男
	和田 亮介		田淵 美喜子		野津 丞
・高2期	久保田 幸雄		玉井 洋子		畑田 稔
	作野 宏		平田 豊子		村尾 俊治
	竹森 英二		喜井 紀佳		米澤 伸夫
	千葉 新一	・高8期	黒田 牧夫		北村 雅子
	長崎 弘		長谷川 忠雄		鈴木 洋子
	成合 茂博		山崎 杲		田村 迪子
	石本 春枝		木並 稔子		中尾 長子
	今市 佐恵	・高9期	岩成 哲男		中川 陽子
	兼清 久子		影山 武男	・高12期	萩野 貫悟
・高3期	緒形 公士		坂本 隆男		森 倫也
	佐藤 藤芳		神 仁人		大和 建雄
	永井 彰		澄川 光成		安部 悦子
	小川 伸江		宗 智海		石川 洋美
・高4期	泉 寛治		田中 英明	・高13期	安部 正毅
	田淵 宗明		伴 稔也		井上 俊雄
	藤原小夜子		真野 透		神田 周平
・高5期	青木 謙整		山岡 裕明		桑原 洋史
	春日 敏邦		渡部 優		永江 幹雄
	勝田 守勇		安部 裕子		深澤 千栄子
	客野 伸		片岡 芙美子		藤田 卜ク子
	寺本 尚由		木村 八重子		水田 昭子
	松吉 孝明		佐々木 悦子		水野 明代

森脇順子  
 山下俱子  
 片山伸雄  
 加藤巡一  
 木村修芳  
 小泉勝是  
 木幡晃正  
 富永寿郎  
 古川幸孝  
 宮原琢郎  
 三好洋二  
 森山國久  
 板倉光江  
 齋藤丸子  
 新名貴久  
 三島幸子  
 安達和彦  
 金坂喜好  
 佐藤修介  
 二階堂孝子  
 井上伸久  
 梅木隆志  
 神田俊之  
 清原正義  
 佐々木康雄  
 土田和男  
 坪倉司郎  
 長野米一  
 松本耕司  
 三成宏二  
 三吉孜  
 森藤哲章  
 石川菖子  
 伊藤育子  
 田中由美  
 中安節子  
 名倉保子  
 西村幸子  
 森川葉子  
 後藤研三  
 松本芳樹  
 山根律郎  
 岩本眞左子

・高14期

・高15期

・高16期

・高17期

・高18期

・高19期

・高20期

・高21期

・高22期

・高23期

木島光子  
 島本妃早美  
 西野やよい  
 原田博子  
 山口悦子  
 太田善博  
 小田一美  
 稲生喜子  
 堀内富美子  
 石橋佳政  
 岩田一志  
 江角健一  
 遠藤和雄  
 佐々木勇  
 新見泰朗  
 万波迪義  
 元栄徹  
 池田喜美代  
 江守久美子  
 大久保章子  
 小数賀健二  
 浜見良樹  
 原田康二  
 渡辺悟  
 佐野和子  
 三好資子  
 物種慶子  
 山寄麻里子  
 花田幸久  
 竹添則子  
 作野国夫  
 村田貢子  
 大浦綾子  
 大濱緑  
 木山洋子  
 鈴木厚子  
 鶴羽孝子  
 松下和子  
 朝比奈博則  
 近藤文雄  
 松本潤  
 森脇泰雄  
 和田邦孝

・高24期

・高25期

・高26期

・高27期

・高29期

・高30期

・高31期

・高32期

・高34期

・高35期

・高38期

・高43期

・高51期

橋千里  
 松本幸子  
 山口紀子  
 糸原直彦  
 岩間令道  
 西田悦子  
 飯石浩康  
 富村誠之  
 伊藤博之  
 福岡則博  
 松村聡  
 三浦清子  
 木田京子  
 新宮富美子  
 菅尾恵子  
 松田稚子  
 太田春樹  
 達山暢  
 福本秀一  
 山本修司  
 須藤聖子  
 田中年恵  
 野津さとみ  
 浜野則子  
 廣瀬弘美  
 杉原伸治  
 田邊より子  
 宍道弘志  
 矢倉和恵  
 田黒公司  
 田中修一  
 細田昌幸  
 山岡雅仁  
 山岡祐子  
 富岡幸子  
 長谷川浩之  
 安達宏昭  
 荒井悦加

以上 247 名  
(平成 27 年 3 月 15 日現在)

ご不審の点は事務局までご確認ください

## 追 悼

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(平成25年12月総会以降、事務局にご連絡のあったすべてを掲載しました)

### 物故会員

期	氏 名	ご逝去年月日
中53期	安部 濱 男 様	池田市 10年前
中59期	山 本 洋 様	川西市 平成26年8月8日
中60期	景 山 章 様	大阪市 不明
高2期	枅 谷 崇 様	沼津市 平成26年5月14日
高5期	庄 司 勉 様	和泉市 平成26年4月11日
高9期	佐 藤 宏 様	奈良市 平成23年3月1日
高9期	月村(川上) 恵子 様	堺 市 平成26年2月5日
高10期	大 坪 一 紀 様	泉佐野市 平成25年12月29日
高16期	内 田 晶 久 様	宝塚市 平成25年9月
高17期	大 須 尚 弥 様	神戸市 不明
高23期	黒 田 洋 様	大阪市 平成26年5月
高27期	竹内(門脇) 博子 様	寝屋川市 平成26年2月5日

## ■第7回 落語鑑賞会

日時／平成26年4月5日(土)  
場所／西梅田・毎日新聞ビル11階「教養室」

落語鑑賞会も今回で7回目を迎えました。最近三回は高槻の割烹旅館亀屋で「亀屋寄席」として開いていましたが、今回は西梅田の毎日新聞大阪本社ビル11階の教養室(和室)に場所を移して開かれました

今回は若手の笑福亭呂好さんの「動物園」、桂坊枝師匠の「天王寺詣り」、「火炎太鼓」の熱演を間近で楽しみました。

参加者はゲスト2名を含め18名でした。

### ◆参加の皆様は下記の通りです(敬称略)

田村稔久(高6)、木村八重子・佐藤早智子・清水良子(高9)、押田良樹(高11)、萩野貫悟(高12)、古川幸孝・小泉勝是(高14)、松本耕司・森藤哲章・西村幸子(高16)、渡辺悟・三好資子(高20)、大浜緑・木山洋子(高22)、糸原直彦(高24)、楠本範子・宮地登美子(ゲスト)

落語会の後、有志13名が近くの居酒屋に移動し、期を超えた交流で大いに盛り上がりました。



## ■第34回 ゴルフコンペ

日時／平成26年5月29日(木)  
場所／武庫ノ台ゴルフコース

### 寺本尚由さん(高5)が優勝!

第34回ゴルフコンペは、汗ばむほどの快晴、緑一杯の好環境の中で11名が参加しました。今回は会員の参加が伸びず、近畿松江会などから4名の友情ゲスト参加により、和気あいあいの中でおこなわれました。

結果は、寺本尚由さん(高5)がグロス100、ハンディ25.2(ダブルペリア)、ネット74.8で堂々の優勝、2位は同じく客野伸さん(高5)がグロス91、ハンディ15.6、ネット75.4、3位はゲストの三好文章さんでグロス97、ハンディ21.6、

ネット75.4で、大先輩達の永年の蓄積された実力に脱帽!という大会になりました。

これまで平日の開催を基本に開催してきましたがお若い方々の参加が伸びず、あるいは休日の開催も視野に入れるべきなのかもしれません。

### ◆参加の皆様は下記の通りです(敬称略)

客野伸・寺本尚由(高5)、木村八重子(高9)、井上伸久・松本耕司(高16)、佐野和子・三好資子(高20)、井上隆吉、伊藤征治・竹谷奨。三好文章(ゲスト)



優勝スピーチ 寺本さん



## ■第9回 文楽鑑賞会

日時／平成26年7月20日(日) 午後2時

会場／国立文楽劇場

報告／押田良樹 (高11)

9回目を迎えた文楽鑑賞会は、ゲストを含め29名というたくさんの参加者がありました。

この数年の恒例となった「夏休み文楽特別公演」の第2部(昼の部)の鑑賞で、演目は「平家女護島」の「鬼界が島の段」と、「槍の権三重帷子」の「浜ノ宮馬場の段」、「浅香市之進留守宅の段」、「数寄屋の段」、「伏見京橋妻敵討の段」で、いずれも近松門左衛門の作品です。

中でも、「槍の権三重帷子」は松江藩で実際に起こった妻敵討事件を題材にした作品で、宍道湖や嫁ヶ島、末次神社や公園らしき景色が舞台いっぱいに描かれ、興味津々で鑑賞しました。(詳しくはHPの2014.7.27のレポートをご覧ください。)

文楽作品では、作品の作られた時代の価値観、倫理観などが現代と違うため「何でそんなんで死ななあかんねん」と思うことが多いのですが、当時としては思わぬ運命に見舞われた男女の定められた不幸が観客の共感を呼んだのでしょう。

人間国宝竹本住太夫が2014年4月に89歳で引退、今回登場の人形遣い吉田蓑助は昭和8年、吉田文雀は昭和3年の生まれですが、日本の伝統美と技を守るのはまさにこれらの人々なのでしょう。高齢にも拘らず体力のいる人形遣いをこなす姿に、我々もまだまだ頑張らなければと思った次第です。



### ◆参加の皆様は下記の通りです(敬称略)

田村稔久(高6)、真野透夫妻・木村八重子・佐々木悦子・清水良子(高9)、押田良樹・田村廸子・中尾長子(高11)、永江幹雄(高13)、加藤巡一夫妻・小泉勝是(高14)、佐々木康雄・松本耕司(高16)、堀内富美子(高18)、三好資子夫妻・佐野和子・山寄麻里子(高20)、木山洋子・大浜緑(高22)、山口紀子(高23)、糸原直彦(高24)、楠本範子・宮地登美子・橋本充男夫妻・松岡茂(ゲスト)

## ■第9回 歴史ウォーキング（軍師官兵衛から、姫路歴史ウォーキング）

日時／平成 26 年 9 月 28 日（日）

場所／御着・姫路

報告／押田良樹（高 11）

今回は2014年NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」ゆかりの地、姫路城を中心に歩きました。

参加者は23名、そのうち16名は早起きをして姫路の隣駅「御着」に9時過ぎに集合し、官兵衛が近習時代を過ごした小寺氏の本拠御着城址、黒田家廟所、播磨国分寺などを見学した後、残りの7名が待つ姫路で11時に全員合流しました。

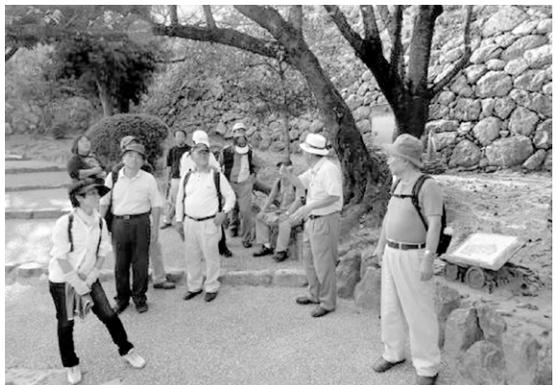
二班に分かれ姫路観光ボランティアガイドさんの案内を受けて姫路城内堀コース（播磨国総社を含む）を歩いたあと、食事処「高田馬場」で昼食、後半は姫路城シルバー観光ガイドの方の案内で、姫路城内2時間コース（菱の門⇒りの一渡櫓⇒お菊井戸⇒天空の白鷺⇒腰曲輪⇒將軍坂⇒西の丸⇒百間廊下⇒化粧櫓⇒菱の門）を歩きました。

雲一つない秋晴れに恵まれ、ほとんど修復も終わった（2015年3月終わり頃には天守閣にも登れるそうです。）姫路城は、青空のもと文字通り白鷺さながらの優美な姿を見せていました。

十分に姫路城を堪能した後、約半数の12名（高11～24）が当然の如く御幸通りの居酒屋へ繰り込み、懇親の時間を過ごしました。

### ◆参加の皆様は下記の通りです（敬称略）

清水良子・篠田いづみ（高9）、押田良樹・後藤武久（高11）、斎尾秀城・萩野貫悟（高12）、小泉勝是・古川幸孝（高14）、土田和男・長野米一・松本耕司夫妻・森藤哲章・西村幸子（高16）、新見泰朗（高19）、三好資子夫妻・佐野和子・山寄麻里子（高20）、木山洋子（高22）、近藤文雄夫妻（高23）、糸原直彦（高24）



## ■第4回「里山歩くぞ！ハイキング」

日時／平成26年10月19日(日)  
報告／押田良樹(高11)

◆コース：近鉄奈良駅～春日大社～白毫寺(びゃくごうじ)～円照寺の約9km(帰路はバス)

昨年の第3回は能勢の棚田を歩く予定でしたが、大雨のため残念ながら中止になりました。今年は二年ぶんの雪辱をはらすべく、気分を変えて奈良でコースを設定しました。

奈良と言えば田中由美子プロ(高16)におまかせになりますが、今回も小泉勝是(高14)、土田和男・松本耕司・森藤哲章(高16)四氏の応援を得て十分に下見をしていただき、当日を迎えました。



雲一つない秋晴れに恵まれ、近鉄奈良駅に20人が集まり、まず興福寺境内を通って春日大社参道を歩きお参りをしました。そして、あせびの繁る樹林のトンネルを抜け、高畑を通って次の目的地白毫寺へ向かいました。道中は道も家並もいかにも奈良らしいのどかさでした。

白毫寺は高円山(たかまどやま)の山麓にあり、関西花の寺二十五ヶ所の第十八番で、特に春の五色椿と秋のハギが有名です。シーズンにはさぞかし見応えがあるだろうと想像しました。拝観料400円を納めて入った境内からの奈良盆地の眺めがこれまた見事でした。また珍しい閻魔大王の像も拝観することができました。

ここから円照寺へは東海自然歩道の道標を

チェックしながらの行程となります。お昼は鹿野園の春日病院近くの草地で、小学生の時の遠足を思い出しながら弁当を広げ、ひと息をつきました。

最終目的地の円照寺は別名山村御殿と呼ばれ、中宮寺・法華寺と並び三門跡寺院の一つです。非公開寺院のため拝観はできませんが掃き清められた参道や静かな門前には尼寺らしい落ち着いた雰囲気漂っていました。山門前で記念撮影をして、充実した一日と田中由美子プロに感謝しながら、近くのバス停から近鉄奈良駅まで乗車し、無事散会しました。

その後、約半数のメンバー(11期～23期)が駅ビル上の中華料理店に入り、楽しく打ち上げをしたことは言うまでもありません。

◆参加の皆様は下記の通りです(敬称略)

田中英明・安部裕子・清水良子夫妻・篠田いづみ(高9)、押田良樹・後藤武久・村尾俊治(高11)、小泉勝是・古川幸孝(高14)、土田和男・長野米一・松本耕司・森藤哲章夫妻・田中由美子(高16)、新見泰朗(高19)、近藤文雄夫妻(高23)、楠本範子(ゲスト)



## 同期会便り

### 高16期(昭和40年卒業) 近畿地区同期会を開催

日時/平成26年5月24日(土)12時半～  
会場/曾根崎「がんこ」本店  
報告/梅木隆志

春季開催を恒例として、今年も5月24日(土)に近畿地区16期(昭和40年卒)の同期会を梅田の「がんこ」本店で開催した。

二次会は近くのミュンヘンへ。これも全員参加で、一次会からの4時間半を高校時代にタイムスリップして楽しく談笑した。

来年は数え年70歳の古希であり、さらに参加者を増やし、開催しようと意見が一致した。

参加者は、写真の15名で過去最多でした。

#### ◆参加者は下記の通りです(敬称略)

(写真前列右から) 山田敬子・森藤哲章・森川葉子・都田艶子・三成宏二・土田和男

(写真後列右から) 三吉孜・長野米一・佐々木康雄・松本耕司・梅木隆志・森光雄・車野巧悦・坪倉司郎・荻田治



### 高22期(昭和46年卒業) 関西同窓会を開催

日時/平成26年10月5日(日)  
会場/ホテル「ホップイン」アミング(JR尼崎駅前)  
報告/鶴羽孝子

2014年10月5日(日)、「第2回関西同窓会」を尼崎で開催しました。第1回を大幅に上回る18名が出席し、新しい顔ぶれも加わり、いっそう賑やかな会となりました。

発起人代表が開会の言葉を述べた後、事務局よりこの会の発足と今回の開催について報告しました。その後“乾杯”が行われ、なごやかな宴が始まりました。

宴の半ば、全員が自己紹介し、北高時代のこと、仕事や趣味、健康のことなどをスピーチしました。その後は、席を移動する人もあり、何十年ぶりに再会した懐かしい友人との積もる話や、“初対面”同志の新たな親交が持たれました。最後に、乾杯と一本締めで締めくくり、次の開催を楽しみにお開きとなりました。

#### ◆参加者は下記の通りです(敬称略)

■石川章・石橋善和・太田朗夫・倉橋勉・実重祐二・内藤清志・内藤善夫・永瀬光一郎・堀江正一・村田貢・吉賀浩一郎

■大浦綾子・大上千恵・木山洋子・鶴羽孝子・西村紀子・松下和子・三田村真知子



## 2015(平成27)年度 事務局会議新年懇親会、新年役員会

### 2015(平成27)年度 事務局会議 & 有志新年懇親会

日時／平成27年1月10日(土) 11時～  
会場／曾根崎「がんこ」本店

昨年の総会での押田良樹常任顧問(高11)の会長ご勇退、松本耕司会長(高16)の就任、渡辺悟副会長(高20)の事務局長兼任、三好資子副会長(高20)の就任と、事務局会議メンバーにも変化がありました。

それを受け、また総会時には押田常任顧問を十分おねぎらいすることもできませんでしたので、まずは感謝とご慰労を申し上げることを一番の目的として、新年早々23名の有志が集いました。

席上、松本会長からの押田前会長の5年間のご苦勞に対する感謝の、また押田常任顧問からは事務局会議メンバーに対する答礼のご挨拶があった後、参加者全員が所感を述べ合い、一層の結束を誓い合いました。

二次会の場所を探していたら、目の前にカラオケが……。先輩各位の昭和の歌が何とも心地よいひと時となりました。

#### ◆参加者は次のとおりです(敬称略)

【役員】押田良樹・田中一男(高11)、萩野貫悟(高12)、梅木隆志・土田和男・松本耕司(高16)、小田一美(高18)、岩田一志(高19)、渡辺悟・物種慶子・山嵯麻里子(高20)、村田貢(高22)、松本潤(高23)、糸原直彦(高24)、宍道弘志(高31)

【有志】村尾俊治(高11)、斎尾秀城(高12)、小泉勝是(高14)、佐野和子(高20)、大浜緑・木山洋子(高22)

【ゲスト】楠本範子・宮地登美子



### 2015(平成27)年度 近畿双松会「新年役員会兼懇親会」

日時／平成27年1月24日(土) 11時～  
会場／中央電気倶楽部

会則第8条に従い、17名の役員の参加を得て恒例の役員会が開催され、山本雅昭(高7)・押田良樹(高11)両常任顧問もご出席いただきました。

松本耕司新会長(高16)からは、まず会長就任のご挨拶がありました。次いで、本年度は下記の二点を中心に運営していくとの方針説明があり、その詳細は3月の事務局会議で検討することと、役員会の了承を得ました。

①新体制下での事務局業務の再構築

②55周年事業以降の収支バランスの回復が不十分なことから、支出状況を総点検する。

また、本年度の総会・懇親会は、11月29日(日)に中央電気倶楽部でおこなう予定も了承されました。

その後、ご欠席の青戸元也常任幹事(中68)差し入れの日本酒をいただきながら、全員がスピーチをして、ささやかながら新年の懇親を深めました。

#### ◆参加役員は次のとおりです(敬称略)

【常任顧問】山本雅昭(高7)・押田良樹(高11)【会長】松本耕司(高16)【副会長・事務局長】渡辺悟(高20)【副会長】三好資子(高20)【監事】梅木隆志(高16)【常任幹事】金坂喜好(高15)・岩田一志(高19)・山嵯麻里子(高20)・富岡幸子(高35)【幹事】久保田幸雄(高2)・田村稔久(高6)・山崎泉(高8)・清水良子(高9)・萩野貫悟(高12)・岡久夫(高17)・池田喜美代(高19)



## 会員近況報告

この近況報告は、昨年の総会の出欠回答時(10～12月)を中心として、本年2月までに事務局にお寄せいただいたものを加えて構成しました。

半年前後の時差がありますこと、ご承知おきください。

### 中61(昭16卒)菊田光男

高齢になり、遠出は遠慮させていただいています。ご盛会を！

### 中63(昭18卒)肥塚隆正

今年米寿を迎えました。お蔭様で元気で暮らしております。趣味は陶芸、木彫、水墨、漢詩の作成です。

### 中64(昭19卒)鐘築光紀

車椅子での生活ですが、年齢なりに何とか過ごしています。いつまでも二本松の下での朝礼がなつかしく想い出されます。(新二本松の一日も早い成長を)ご盛会を祈っております。

### 中65(昭20卒)諏訪秀富

母校の発展とその栄光とともに、皆様のご多幸をお祈りします。

### 中68(昭23卒)青戸元也

近畿双松会のご案内有り難うございました。御蔭様で歳相応に元気で有り難い事と感謝しております。

### 中68(昭23卒)荒銀昌治

今年は2度帰省(安来市広瀬町)しました。来年は1月に松江を訪れる予定があり楽しみにしています。

### 中69(昭24卒)杵築武彦

現在療養中。

### 高1(昭25卒)宇藤二男丸

当日、地域行事に出席のため欠席致します。

### 高1(昭25卒)永松良夫

83歳となりました。いろいろあり老化しました。すぐ疲れます。でも頑張っています。

### 高1(昭25卒)林原信光

都合悪く、欠席させていただきます。

### 高1(昭25卒)平山武秀

元気に過ごしています。当日は先約があって出席できず申し訳ありません。

### 高2(昭26卒)久保田幸雄

事務局の皆様、役員の皆様、いつもご苦勞様です。

### 高2(昭26卒)竹森英二

川柳の句会日と重なりましたので、出席できません。ご盛会をお祈りいたします。

### 高3(昭27卒)永井 彰

年齢相応に、ボチボチやっております。

### 高3(昭27卒)周藤マシロ

いつもご案内をいただき、有り難うございます。卒業後大阪へ出て60年余りになりました。お陰様で、一人暮らしですが何とか元気で過ごしております。

### 高4(昭28卒)泉 寛治

高齢となり足が弱くなりました。

### 高4(昭28卒)藤原小夜子

10月5日小学校の運動会が台風で中止され、今月10月8日に実施されました。子や孫はいませんが、地域の小さい連中が出場するので毎年応援に行きます。学校の体操服で赤、白の帽子、どこに誰かと見つけるまでに終わってしまいます。

それでも美しい青空の下で、元気に一生懸命の姿を見ているのは、最高に楽しく幸せでした。

12月7日は都合が悪く欠席します。よい会になりますよう。

### 高5(昭29卒)青木謙整

京都島根県人会会長・大本山東福寺宗務総長共に退任し、本業である僧侶の世界で法要・葬式等、ボランティア活動をさせていただいています。御用がありましたらご利用下さい。お待ちしております。

当日、京都で会合があり、欠席いたします。皆様によろしく！

### 高5(昭29卒)山田 稔

高齢になり、行事出席が負担になるような状況です。失礼ですが欠席させていただきます。ご盛会をお祈りします。

## 会員近況報告

### 高5 (昭29卒)野津恵子

なつかしい松高の皆様、お元気でいらっしゃいますか。お会いしたいですね。どうぞお元気で過ごして下さい。

### 高6 (昭30卒)荻野克彦

元気です。どうしても出ないといけない会合があり、欠席します。

### 高6 (昭30卒)森岡敏眞

いつも盛り沢山な行事一運営・企画等大変な事と思います。役員・スタッフの多さの必要がわかります。6期では田村氏の責任感にいつも感謝しています。

当日は出席予定でしたが、諸行事が重なり欠席で残念に思います。

### 高7 (昭31卒)寺本好弘

奈良市で婦人科がん検診に携わっています。

### 高7 (昭31卒)廣政俣彦

8月下旬頃に椎間板ヘルニアを発症し、歩行もままならぬ状態ですので、今年は失礼させていただきます。

### 高7 (昭31卒)泉 桂子

畑とグランドゴルフに熱を入れています。

### 高9 (昭33卒)澄川光成

ご盛会を祈ります。

### 高9 (昭33卒)田中英明

植物を見ながらの山野の散策や、家庭菜園などで過ごしています。

### 高9 (昭33卒)伴 稔也

飛鳥応援大使、奈良国立博物館ボランティアなど、結構忙しくしています。

### 高9 (昭33卒)真野 透

当方の事情で欠席させていただきます。ご盛会を念じております。

### 高9 (昭33卒)山岡裕明

10月30日横浜での高9期関東地区同窓会(松九子会)に初参加。普段お目に掛かれない関東在住の方々に卒業以来久し振りで対面。旧交を温めました。

### 高9 (昭33卒)渡部 優

松高卒業(9期)、鳥取大医学部卒業後、大阪大

学脳外科勤務(10年間)、近畿大学脳外科(16年)を経て、現住地甲子園(西宮市)に於いて開業して20年になります。

この間3人の子供(娘)は長女は名古屋、次女はロンドン、そして3女は北九州市に嫁し、夫々孫を4人、1人、2人もうけて幸せに暮らしている。

我々老夫婦は西宮市甲子園六番町渡部クリニックで、私は脳外科医、妻は小児科医として働いております。阪神甲子園駅を挟んで甲子園球場(南側)等距離で、(北側)渡部クリニックに在住しています。

### 高9 (昭33卒)安部裕子

先月10月17日の里山ハイキングでは大変お世話になり有難うございました。世代を越えての人々と楽しい見学と散策、お世話して下さいの方々の下見等、感謝です。

今回の総会も地区行事と重なり残念ながら欠席いたします。

### 高10 (昭34卒)天野正彦

元気で過ごしています。皆様よろしく。

・体力づくり一本でハイキング、山登り、ジョギングetc

・飲み会で同期、会社友人等、1回/月

・趣味の版画製作、犬の散歩etc

### 高10 (昭34卒)面白 紘

10月21日～22日、小学校・中学校同窓会を皆生温泉で行い、19名(内関西から3名)が集まりました。

### 高10 (昭34卒)佐和田 丸

私の郷里、飯南町におおしめなわ創作館が昨年9月、道の駅頓原に隣接して開館しました。飯南町花栗はしめなわの里として有名で、出雲大社をはじめ全国各地の神社へ奉納しています。あのあたりへお出かけの節はぜひお立ち寄りください。(写真参照)

健康維持のため、自転車さんぽを日課としていたしましたが、下り坂で転倒しあちこちけがをしました。外科、歯医者へ通い、今整形外科のお世話になっています。ひざを強く打ち、この痛みがとれるのはかなり時間がかかりそうです。皆さん、事故に注意しましょう。

京都の大谷本廟へ分骨納骨いたしましたので、折りにふれ参り、そのあと京都見物して帰るのが楽しみのひとつになりました。京都は、フラット



ですし見どころも多く楽しいところですね。

国立九州博物館で「台北故宮博物院展」があり、家内と行ってきました。日本では、東京・福岡の2か所のみで開催。本邦初公開「肉形石」をはじめ同院が誇る神品至宝の数々を鑑賞できて、良い思い出になりました。舞台裏では、中国が所有権を主張するのはとの心配もあったようですが…。

(編集注)「肉形石(にくがたいし)」・清時代・18～19世紀。石材の縞目を活かして肉の赤身と脂身に見立て、染色技法を駆使してタレが染みた豚の角煮を表現した究極の「神品」。皇帝が日常の政務を執り行う紫禁城の養心殿で鑑賞されていた。

九博は、東京、京都、奈良に次ぐ美術系の4番目の国立博物館とのことですが、立地がら東アジアの展示物が多いように感じました。また、太宰府天満宮も参拝、福岡・天神あたりを散策してきました。飲食店ではアジア系の客が多いのが印象的でした。

個人的にお嫁さんの世話を頼まれています。ご協力ください。

・本人 1979年生 大学院専修科卒 茨木市内神社跡取り 結婚後別居

・本人 1965年生 阪大薬卒薬剤師 現在松江市内の薬局勤務

HPを更新しました。

<http://simane.do47.net/kadoya.html>

#### 高10(昭34卒)清水義男

年令相当にそこそこやっております。ご盛会をお祈り致します。

#### 高10(昭34卒)須山 耕

介護老人(93才)をかかえており、外出が出来にくくなりました。皆様によろしく。

#### 高10(昭34卒)清水小枝子

今年は5月に10期の関東方面の会(湖山会)があり、10月には松江で卒業55周年の同期会が玉造温泉一泊で開催されます。

又、近畿双松会会報で様子を読むのを楽しみにしています。

#### 高11(昭35卒)小久江良雄

毎日元気で活動しています。

#### 高11(昭35卒)神門英明

8月に小学校の同窓会で松江に行き、門脇駿介君、佐川守彦君、田邊美智子さんに逢い、昔話に花が咲きました。その折、押田会長も若い人達の同窓会(北高かな?)に来られていたようです。

#### 高11(昭35卒)高本紘史(松江市在住)

9月28日(日)境港でのレガッタで今シーズンが終了しました。が、練習は年中続きます。

いつも連絡をいただき有り難うございます。自然災害が多かったように感じた2014年も残りわずか…。おだやかな年末年始であって欲しいものです。

押田氏にはいつも応援してもらい感謝しています。

#### 高11(昭35卒)村尾俊治

元気にやっています。総会準備等ご苦労さまです。よろしく。

#### 高11(昭35卒)湯川好満

隠岐民謡協会奈良支部「光城会」で尺八、唄を練習しています。

[宣伝] 会員の北西椎菜采さんがH26. 12. 14(日)PM3:05～3:49にNHK総合テレビへ出演します。興味のある方はチャンネルを合わせてみて下さい。

#### 高11(昭35卒)中林知子

幹事の方々のご尽力に感謝申し上げます。

#### 高12(昭36卒)景山精二

まだ元気です。

#### 高12(昭36卒)斎尾秀城(松江市へ転居)

近畿双松会の皆様。関西ではいろいろとお世話になり有難うございました。

小さいながら叶わぬ夢と思っていた故郷への帰還を敢行したまでは良かったのですが、持ち運んだダンボールの多さに呆然としているところです。

エイヤッの掛け声にて多くを処分したい気持と、いやいやそうはいかんやろ、という気持との間で心揺れる毎日です。これ欲ボケかな?と一人苦笑しています。

この分だと半世紀ぶりの松江を愛おしく満喫するのはいつの事やらと案じているところです。

とはいえ、愛犬と散歩する朝夕の宍道湖の風情には十分満足しています。

#### 高12(昭36卒)福岡昭光

ご案内をいただきながら欠席ばかりで申し訳ありません。

小さな山荘(Cottage)を1997年に造りました(大山の山ろくに)。71才の今、年間130日程はそこで生活し、玉湯の先祖伝来の畑で梅・柿・栗の栽培を楽しんでおります。

## 会員近況報告

### 高12 (昭36卒)大和建雄

健康老人です。

### 高12 (昭36卒)山本輝夫

後期に進級まで3年。モノ忘れに加え各パーツに錆び、ユルミも目立ち、平均寿命と健康寿命のイコールフィッティングは至難の技と痛感。ロコモ予防にとジムでジョギング(30分)、筋トレ、泳ぎ(1km)を月に20回程度。

(編集注)ロコモとは運動器症候群：ロコモティブシンドロームの略。

オックスフォード大にて脳外科の基礎研究を続ける三男家族がこの夏6年振りに本格帰国する予定で心待ちにし、カウントダウンに入っていたが、孫娘の現地大学進学で先延ばしになり落ち込む…。

全米OP準V・郷土のスーパーヒーロー”エア・ケイ”君の大活躍に勇気を貰い、元気回復。だんだん。

### 高12 (昭36卒)安部悦子

お世話を戴き、有り難うございます。

### 高12 (昭36卒)今井洋子

昨年40年振りに千里に戻って来ました。

1ヶ月に1～2回カルチャーセンターでトールペイントを教えるものですから名古屋に出かけてます。たまたま12月7日も名古屋です。残念ですが欠席させていただきます。

### 高13 (昭37卒)安部正毅

モンゴル国の技術支援でウランバートルに行っています。

国内では繊維産業のための企業への支援と大学での教育に精を出しています。

### 高13 (昭37卒)今井勝治

67歳まで働き、現在古稀となりました。妻は現役(教師)、子供は2人、孫各2人。将来は松江市に移住を考えています。

### 高13 (昭37卒)桑原洋史

20年以上空き家になっている故郷の我が家、この夏の蒸し暑い日に、久しぶりの掃除をしました。その時ダニ?に襲撃されました。全身を咬まれ、両下肢には水疱多数。今夜はこの家では泊まれない、と思いました。

松江で宿を捜したのですが、全くありませんでした。こんな緊急事態なのに、一部屋もないのかと、観光客で賑わう松江を恨みました。

### 高13 (昭37卒)村田雅子

お世話下さいまして有り難うございます。

### 高13 (昭37卒)八板洋子

孫と義母(100歳)の世話で忙しい毎日です。

### 高14 (昭38卒)加藤巡一

12月4～5日大津市で同期会を行います。

### 高14 (昭38卒)木村修芳

毎月、3～5日は松江へ帰っています。

### 高14相当(昭38卒)小泉勝是(山口高校卒)

近畿双松会入会3年目、各行事への積極参加を目指し、以来会員の皆さまとの交流が広がってきた。

昨年からは大阪府の高齢者大学に“越境入学”し、「子ども科学・手作りおもちゃ」を週一日のペースで学び始めた。実は入学のきっかけは近畿双松会にあり、古稀を迎えて新しい友人たちとの出会いを楽しんでいる。

### 高14 (昭38卒)木幡是正

9/下旬、10年ぶりに東京へ。

①六本木のオルセー美術館展すばらしい！特にミレーの「晩鐘」、遠くの教会から祈りの情景の中、カネの音が聞こえてきました！名画ってすごいね！

②上野のポストン美術館の北斎展、本物の浮世絵、超一品は荒波の遠くに富士山のあるアレです！

☆本物の世界はすばらしいですね！

### 高14 (昭38卒)富永寿郎

小生一人で歩くことがむづかしい身体になってしまいました。現在リハビリ中です。早くよくなるように頑張っています。来年は是非参加致したく。

### 高14 (昭38卒)三好洋二

年々再々、月日が経つのが早くなりました。ただ、残りを長いとも思わず短いとも嘆かず。

### 高15 (昭39卒)東郷範子

皆様(同期の)にもお会いしたいのですが、足を悪くしましたのでちょっと出かけるのが難しいのでよろしくお伝え下さいませ。欠席ばかりですみません。

### 高16 (昭40卒)松本耕司

小泉八雲にはまっています。渡辺悟氏(高20)に紹介されて「新編 日本の面影」(角川文庫)を読みました。その面白さにつられて「神々の国の首都」(講談社学術文庫)、「小泉八雲集」(新潮社)にま

で手を伸ばしました。

そして、偶然、松江駅の今井書店で「八雲の妻小泉セツの生涯」(今井書店)を手にして、読んで泣きました。

没後110年、年をとらぬとわからないことも多いけど、我らは母校の元教師八雲先生のことでもセツさんのことも、もっと学び、知るべきではなかったかと今にして思っています。

.....  
**高16(昭40卒)三成宏二**

元気にしております。近隣自治会の臨時総会とかち合ってしまったのですが、遅れて出席させてもらいます。

.....  
**高16(昭40卒)三吉 孜**

今年は、趣味の写真で全国的なコンテスト入賞など充実した年でした。来年は将来に備えて変化の年になりそうです。

.....  
**高16(昭40卒)森藤哲章**

定年退職し、そして再雇用の2年間も終わりました。亡き同級生の親族から依頼があり、幸いこれからはしばらくサラリーマン生活が続きます。

定年・再雇用終了の記念として、妻と南アフリカのケープタウンまで観光旅行に行ってきました。その時の記念写真を添付します。



また、昨年9月の姫路の歴史ウォーキングの際、播磨国分寺で頂いた桑の木が我が家の畑で成長して行くのを楽しみに、春を待っているところです。

.....  
**高16(昭40卒)伊藤育子**

日程が合わず、ご無礼します。

.....  
**高17(昭41卒)浅津民夫**

年令に合った仕事を続けさせてもらっております。幹事の皆様ご苦労様です。

.....  
**高17(昭41卒)岡 久夫**

17期の皆さんへ。

今般、縁あって近畿双松会の17期幹事を引き受けることになりました。同期の皆様には今までの不義理をお詫びし、今回の幹事就任をご了解賜りますようお願い申し上げます。

私も松江を離れてからほぼ半世紀が経ち、神戸

で骨を埋める事になりますが、特に最近故郷を忘れ難く、同郷の皆様と会えば瞬時に気持ちが一変して青春時代となります。

昨年、現役を引退し年金頼りですが、近畿双松会の中で17期が盛り上がるよう微力ながら相い務めますので、同期皆様のご協力・ご支援を切にお願いいたします。

.....  
**高17(昭41卒)木島光子**

所属しているサークルの忘年会と重なったため、今年度の総会は欠席いたします。申し訳ありません。

.....  
**高17(昭41卒)原田博子**

写真を趣味としていますが、北海道で偶然16期の三吉孜さんと同じツアーでした。近畿双松会に出席するよう勧められましたが、今回は都合により欠席させていただきます。

.....  
**高18(昭42卒)太田善博**

法事と重なりましたので、欠席させていただきます。

.....  
**高18(昭42卒)小田一美**

皆さんこんにちは。今年度より18期の期別幹事を仰せつかりました。よろしくお願ひします。

我々18期は団塊の世代として卒業生は多いのですが、なぜか近畿双松会への出席率が良くなかったようです。今後一人でも多くの仲間が集まるように少しずつ人の輪を拡げていきたいと思っています。皆様のご指導とご協力、よろしくお願ひいたします。

なお、3月1日に近畿在住者の同期会を初めて開催いたしました。感謝です。

.....  
**高19(昭43卒)岩田一志**

幹事の岩田です。19期の皆さん、それぞれお元気で第二、第三の人生をお過ごしのことと思います。

それをより楽しいものにする為にも、年に一度は近畿双松会の場でお会いでき、昔を懐かしみながら同期の皆さんと歓談できればいいなと思っています。

ぜひ総会懇親会にご参加ください。お待ちしております。

.....  
**高19(昭43卒)新見泰朗**

今年は歴史(姫路)、里山(奈良)両方に参加させていただき、好天のもと大いにリフレッシュさせていただきました。

総会は今年1月2日に94歳で亡くなった母の一回忌が12/7に広島である為、欠席させていただきます。ご盛会お祈りいたします。



は大変お世話になり感謝いたしております。

卒業してから月日が経過しても母校と松江への思いは色褪せることはありません。次回、皆様にお会いできるのを楽しみにいたしております。

.....  
**高24（昭48卒）野津正明**

平成25年7月1日、総務省を近畿総合通信局長を最終に退職。同年10月1日（財）テレコム先端技術研究支援センター（SCAT）に再就職。現在、同財団理事・事務局長。（勤務地も住所も関東へ）

.....  
**高26（昭50卒）福間則博**

泉校長先生には、母校のために頑張って頂きたいと思います。（卒業同期です）

.....  
**高26（昭50卒）松村聡**

26期の同期に声掛けさせていただいておりますので、当日連絡なしでの参加がありましたら、ご対応お願いします。

.....  
**高26（昭50卒）松本義明**

2年前から、中国の子会社（日新電機（無錫）有限公司）の総経理（社長）をしております。近くに來られたら、お寄り下さい。

.....  
**高27（昭51卒）三浦 清**

社用で既にスケジュールが入っており今回も参加出来ません。申し訳ありません。皆様に宜しくお伝え下さい。

.....  
**高28（昭52卒）向山仁恵**

四月から熊本に転居しております。近畿双松会の皆様お世話になり有難うございました。益々のご発展をお祈り致しております。

.....  
**高29（昭53卒）太田春樹**

懇親会当日、皆様にお会いできるのをとても楽しみにしています。

.....  
**高29（昭53卒）達山 暢**

26年6月末で山陰合同銀行を退職し、7月より出雲市の株式会社丸三で勤務しています。新しい職場は毎日がチャレンジの連続ですが、銀行時代32年間に先輩や同僚、お客様方に教わったことすべてが活かしています。

近畿双松会にも可能な限り参加し続けようと考えています。

.....  
**高36（昭60卒）関谷知之**

10/1 付人事異動により松江に帰りました。尼崎在勤中はお世話になりました。盛会を祈念申し上げます。

.....  
**高59（平20卒）築山健一**

司法修習で埼玉におりますので、残念ながら参加することができません。来年の総会に参加させて頂くのを楽しみにしております。

.....  
**高64（平25卒）宇田川幹生**

大学二回生になり、だいぶんこちらの生活に慣れてきました。

.....  
**高64（平64卒）中西祥平**

高校時代お世話になりました皆様、友達の皆様さん（近畿双松会の中では特に吉持主税君としばらくお会いできておらず気がかりですが）を始め、皆様お変わりありませんか。

齢二十になりまして、酒を少し覚えました。松江へるんビール、美味しいですね。来年の成人式にて特に同期の方々には故郷でお会いできるものと期待しております。

最近、独逸語に毎日苦しめられております。誰か助けて下さい（笑）。

大阪府箕面市にて。平成26年10月12日

.....  
**高64（平64卒）秋月美澄**

大学に一浪を経て入学して半年が過ぎて生活のペースも安定してきました。バレー部に入部して最近は特に寒いですが練習を頑張っています。

.....  
**高65（平65卒）島田きさら**

授業、サークル、バイト…と忙しいけれど、充実した毎日です。一人暮らしにもようやく慣れてきたように感じます。

.....  
**高65（平65卒）吉原 蛍**

看護師になるため、日々頑張っています。

## 『国立民族学博物館と実家』

～ 2013（平成 25）年度「設立 55 周年記念会報」投稿の補遺～



佐和田 丸（高 10）

1. 前号で述べたとおり、実家はしょうゆ・みその醸造販売をやっていましたが、兄の急病死で廃業しました。

残った大量の醸造用具は、苦勞して揃えた亡父亡兄はもとより、昔、大きな 20 石樽は馬車で運んだとのこと、運んでくれた馬の諸君に対しても、産廃廃棄処分するには忍びないし申し訳ない。民博はじめ全国各地の博物館・資料館に体当たりで頼み込んで保存・展示して貰うことになった。



カドサ醤油 工場の大煙突

さいわい各館とも快諾して頂き、保存に協力いただいた各館には心から感謝しています。

（編集注：前号 55 周年記念会報の P 83 に掲載。実家は旧頓原町。民博は吹田の国立民族学博物館）

2. ところで、拙稿を読んだ実にたくさんの方から、さまざまな意見・感想が寄せられました。

面白かった、感動した。地元島根県で保存できず、他県へ流出・保存されるのは県関係者として残念、再発防止策を考えた方がよいのではないか。文化財は社会全体として後世に残していかなければならないもの、あなたの奮闘に敬意を表します。私も文化財的保存価値のあるものを保有しているが、保存先に悩んでいたところで、貴殿の保存方法は非常に参考になりました。また、これはこの上ない先祖供養にもなったのではないかと。貴家の用具が民博をはじめ、全国各地の博物館・資料館の資料充実に貢献したことは、たいそう意義あることであつた喜ばしいことです。等々…。

今後、県の施設統合で空き施設ができれば、民俗資料館に転用するなどして、受け入れを考えてもよいかもしれません。

3. 醤油・酒の瓶レッテルは、頭、肩、腹の 3 種類のレッテルがありました。（資料：カドサ醤油のレッテル参照。）

頭レッテルについては、昔はコルク栓でしたから、美観のため頭レッテルを貼りました。現在は綺麗な金属栓に変わりましたから、頭レッテルは不要になり使われなくなりました。

よくご存じのとおり、肩・腹レッテルは現在も各社で使用されています。

4. 蓋なしを「桶」、蓋つきを「樽」と言うが、今はまとめて「木桶」ということが多い。

桶は使い回しされてきた。まず酒屋が酒桶をつくり、20～30 年で寿命がくると、今度は醤油屋や味噌屋が買い取り、箍（たが、竹を割ってたがねた輪）を締め直し 150 年ぐらいは使えるらしい。

しかし、桶は不衛生だ、不便だという風潮のもと、ホーローやステンレス製に置き換わりつつある。一方、木桶を見直す人も少数派であるがしぶとく存在している。木桶は唯一、空気を通す器です。微生物が住みつき、醸造がうまくいき、醤油や味噌が美味しくできるというのがその理由だ。木桶の方がオッケー！派も、今なお一部健在です。

5. コーヒータイム／風が吹けば桶屋がもうかる話

風が吹くとホコリが舞う。そのホコリが目に入ると眼病になる。これが悪化すると盲人になる。盲人になると三味線を習いだす。三味線が売れば猫の皮が必要になる。猫を捕えるとネズミがのさばる。怖いものなしのネズミどもが桶をみんなかじってしまう。そこでおかみさんたちが新しい桶を買いに来るので、桶屋大盛況という一大顛末。世の中はどこかしらでつながっているものなのである。

（日本のことわざから）木桶がホーローやステンレスにすべてとってかわると、この話も、過去の話・昔物語になってしまうかもしれない。

6. HP (<http://simane.do47.net/kadoya.html>) も更新しています。

併せてご覧くだされば幸甚です。



カドヤ醤油店舗（看板は国立民族学博物館で保存）



醤油仕込蔵

### カドヤ醤油のレッテル説明

カドは屋号かどやのカド、サは家名佐和田家のサに由来します。

#### 上段 頭レッテル：

昔はコルク栓で美観の為上から頭レッテルを貼りました。現在はコルクから金属製に変わり、使用されなくなりました。

#### 中斷 肩レッテル：

ビンの肩に貼るレッテル。現在も使用されています。

#### 下段 腹レッテル：

ビンの腹に貼るレッテル。現在も使用されています。



仕込蔵内部



麹室内部

## 『松江のたからもの』

～2014年5月31日、高橋一清氏のご講演のご紹介～  
(松江観光協会観光文化プロデューサー、元文藝春秋各誌編集長)

松本耕司（高16）

皆様は高橋一清氏をご存じでしょうか。益田生まれの島根県人で、現在は標記のお立場で松江の観光文化の振興のために大車輪のご活躍をいただいている。

私は昨年5月31日、近畿双松会とは協力関係にあるふるさと会、近畿松江会の一員として島根半島をめぐるバスツアーに参加した。郷里本庄を通る旅で欠席はできないという思いはあったが、それ以上に高橋氏のお話を聴けるのが最大の楽しみであった。

高橋氏の講演は美保関「美保館」の和室に座布団を敷き、丁度寺子屋で先生が生徒に講義をするという形式でおこなわれた。訥々とした語り口で、少しでも多くのことを伝えようというお気持ちがうかがえ、参加者もいつしか引き込まれて至福のひと時となった。

お話のテーマは、松江には沢山の「たからもの」があることを、松江を郷里とする人々はよく認識し、このよさを持続、発展していくよう心がけて欲しいということであったと理解している。

私はこの素晴らしいご講演内容をできるだけ多くの人に知ってもらいたいと思い、高橋氏のご確認をいただいて今年の近畿松江会報“だんだん”に寄稿した。そしてこのたび、近畿双松会員の皆様にも是非お知らせしたいと思い、再び高橋氏のご好意にすぎた次第である。松江会にも入会しておられる会員の方は再読になるが、趣旨に免じてご容赦をいただきたい。

今、高橋氏は地域の文化情報誌としては出色の評価を得ている「湖都松江」の編集に余念なき日々をお過ごしであるが、会員の皆様には是非「湖都松江」をお読みいただくこともおすすめする次第である。

あらためて、ご無理なお願いをお聞き届けいただいた高橋氏に感謝を申し上げ、下記に講演骨子を報告させていただく。

高橋氏は、まず松江を訪れた文豪、作家たちの松江の印象から話を始められた。

### ●高橋一清（たかはし かずきよ）氏プロフィール

昭和19（1944）年、益田市に生まれる。益田中学校、山口高校、早稲田大学を経て、同42（1967）年3月、文藝春秋に入社。各誌編集部員、編集長を平成17（2005）年3月まで務める。その間、日本文学振興会理事、事務局長として芥川賞、直木賞などの運営にあたる。同17年の4月より松江観光協会に観光文化プロデューサーとして赴任。文化観光を基調とした松江の魅力を国の内外に発信している。また、松江に作家を招聘し、「松江文学学校」を主宰、全国から受講生が来松している。近ごろ、「新作怪談」の執筆を呼びかけ、作品公募をして話題を集めている。著書に『あなたも作家になれる』『編集者魂』『作家魂に触れた』『百冊百話』、編著に『松江観光事典』『和の心 日本の美 松江』『松江 文学への旅』『ガイドブック美保関』『石見観光事典』『松江特集』、共編著に『古事記と小泉八雲』がある。日本一の町の文化情報誌といわれる「湖都松江」の編集にあたっている。松江市在住。



## (1) 作家たちを癒した松江の「水」の力

### ■芥川龍之介 (1892～1927)

失恋の痛手を癒すために、芥川は旧制第一高等学校からの友人、井川（恒藤）恭（松江市生まれ、旧制松中26期、法学者、初代大阪市立大学学長）に誘われて、大正4（1915）年8月5日より17日間、松江に滞在しました。そして井川は芥川を海水浴に連れ出すのです。鹿島の古浦、大社の稲佐の浜、大田の波根での海水浴など山陰の大自然に身を投げ出して、すっかり元気を取り戻し、真山の城跡（法吉町、白鹿城の北隣）にも登ったりしています。帰京後、出世作の『羅生門』を書きました。そういう芥川です。松江の印象を「縦横に貫く川の水と多くの木造の橋、水に浮かぶ美しい都市」と書くのはうなづけます。

### ■志賀直哉 (1883～1971) 里見弴 (1888～1983)

志賀は後に小説の神様と言われます。志賀にとっての神様はラフカディオ・ハーン（1850～1904）でした。ハーンの簡明な文章に多くのことを学びました。松江に来たのはハーンへの追慕もあったと思われる。大正3（1914）年5月より約百日間、5歳年下の里見弴とともに松江に滞在しました。二人の松江暮らしの目的は都会での生活、人々との交渉に疲れた上での「生活の立て直し」でした。廊下を歩いて、いわゆる花柳病を患ったり、決して健康な暮らしではありませんでした。そういう二人を宍道湖、美保関、加賀の潜戸などの松江の自然が慰めます。志賀も里見も人生苦、創作苦などの転換期にあり、それを乗り越えるきっかけをこの松江滞在で得たようです。志賀はこの間に大山寺蓮浄院へ行きます。そこでの体験を後に『暗夜行路』に生かしています。

芥川も志賀も悩みをかかえていましたが、松江の川、海、自然はそれを癒す力を持っていた。特に『水』の力の偉大さを感じるのです。

### ■田山花袋 (1872～1930)

花袋は明治39（1906）年10月、帰郷した女弟子を広島の上野町に訪ねた後、島根県に入り、松江を訪れ皆美館に宿泊します。女弟子岡田美千代への恋慕を断ち、帰京後にその思いのほどを赤裸々

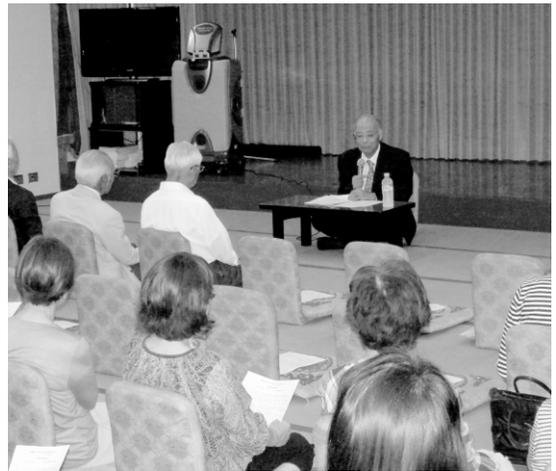
に『蒲団』という小説に書きました。

これが日本特有の小説の形と言われる「私小説」の始まりとなります。

花袋は松江や島根が大好きだったようで、以後、大正4年5月、大正12年6月に来訪し、島根の町や村、海や山や川をめぐり歩き、紀行文を残しています。

### ■島崎藤村 (1872～1943)

昭和2年（1927）年7月8日より12日間、山陰を旅行し、紀行文『山陰土産』を著わしています。この旅では松江が大層気に入り、皆美館に4泊して、松江の各所や美保関、そして北浦をめぐっています。旅は次男の鶏二を伴っていました。二人は松江の水の力に身を委ね、体も心も和ませて、「東京に帰るのをやめて、いっそ松江の人になろうか」と語り合ったと書いています。島根半島をめぐり、船から見た絶壁の印象を晩年の『東方の門』に記しています。



足を伸ばした石見では中世の面影が残る益田で雪舟庭園の石の美に感動し、国境いの町津和野には、信濃と美濃の国境いに生まれた藤村は特別な関心を示しています。中山道の山間の宿場を舞台に、個人の運命と歴史の動向を重ねさせた『夜明け前』を構想中の藤村が、ここで新たに向かう小説への確信を得たと言っていいでしょう。

こうしてみると、日本の近代文学の代表的な作品の誕生のすべてに「松江」が大きく関わってい

ることがわかります。あらためて『水の力』を思います。

## (2) 地元の二人の偉人を紹介

外来の文士のことばかり語りましたが、地元の人であまり知られていない二人を紹介します。

### ■もとえや ごんいち本栄屋権市（美保関七類の漁民）

嘉永3（1850）年に遭難し、2年間外国で暮らした後、帰還しました。幕末の第10代松江藩主松平定安が面会し海外事情を聞きます。権市は名字帯刀の士分に取り立てられ「森脇森之助」となって、軍艦「第一八雲丸」（10万ドルで買った英国製の鉄の軍艦）の船長を命じられています。幕末のころ松江藩は木綿、人参、タタラなどで豊かな財力を持ち、「第二八雲丸」も所有するほどでした。権市こそ松江版のジョン万次郎とも言えるべき人です。

### ■増田 渉（中国文学者 1903～1977）

魯迅が最も敬愛した日本人は他でもない増田です。鹿島町恵曇の片句の生まれ。旧制松中42期、旧制松江高校から東大へと進み、卒業後、訪れた上海で魯迅と出会いました。魯迅という作家と中国の生々しい現実を日本に知らせ、1935年の『魯迅選集』は当時10万部を超える大ベストセラーとなりました。

島根大学に中国文学科をつくり、その後も各地の大学で教え、同学の俊英を育て、多くの文献を残し、日中文化交流に尽力しました。その人柄の良さ、謙虚さ、「含羞がんしゆうの人」は松江人の美質として多くの人から慕われています。

## (3) 松江城も「たからもの」

松江城は黒板壁で、姫路城のような漆喰壁ではありません。これだと20年に一度は塗り替えが必要です。板壁は100年一度の修復ですみますから、維持管理の経費は五分の一です。その分、民への税も加減されます。城は戦闘を第一の目的においた実用的な作りです。富田城を壊したあとの廃材も活用するなど儉約し、合理的な築城のあとがうかがえます。

また、大坂城より桁行、梁間とも一間づつ狭くするなど、堀尾吉晴が豊臣家への恩顧を忘れない

ようにしたとも言われています。

「城」は象徴的な建造物です。「松江城」を見て育つ松江の人には、合理的な考えや質素儉約の暮らし方が根づき、松江人の気質を形づくってきたと私は思うのです。

## (4) 和譲の精神も「たからもの」

現代を代表する言論人で「知の巨人」と言われている立花隆氏（1940～）が目すべきこととして「和譲の精神」を挙げています。（2013年6月14日山陰中央新報に寄稿）

その中で、立花氏は出雲大社大遷宮事業に触れ、あらためて「出雲が神話のふるさと」であり、神話が今の出雲の生活空間のあちこちで生きていると感じたと記されています。

そして、スサノオと田中角栄を二つの「荒ぶる神」として比較され、田中角栄の荒ぶる魂を鎮めることができなかったから、その後の日本の政治の救いがたい混迷を招いたように思うとされ、なぜ、現代人はオオクニヌシの「国譲り」の知恵（出雲人のいう「和譲の精神」）に学ぶことができなかったのだろうかと思われています。

このような着眼で出雲を観ている立花氏には、さらに理解を深めていただき、新たな発見をしていただきたいと、折あるごとをお願いしています。その「古代出雲」発祥の地は、他あらぬ松江なのです。

.....

高橋氏は以上で講演を終えられたが、私たちは何かとても大事なことに気づかされ、松江に生まれてよかった、この「たからもの」を大事にしていこうと、おそらくは皆が思ったのではないだろうか。とても有難く、全員で感謝の拍手を贈った次第でした。

## (5) 後日談「花森安治先生」のこと

講演後の懇親会で、私はかつて勤めていた会社での先輩の奥様があの「暮しの手帖」の花森安治のひとり娘でいらっしゃったことから、一昨年、高橋氏が企画された島根県立美術館での「花森安治展」の御礼を申し上げさせていただいた。

それはそれで終わったと思っていたが、何とその後、高橋氏からご丁寧なお手紙をいただいた。高橋氏にとって花森安治は大変気になる存在で、その原点が旧制高校時代を過ごした松江にあると考えておられ、私との僅かな会話の中でも奇縁を感じたとして、資料まで同封いただくという真にご丁寧なものであった。

私は、高橋氏の編集者魂やお人柄にあらためて惚れた思いがし、更にさらに大ファンになった次第である。

### ■花森安治（編集者 1911～1978）

神戸生まれ、旧制松江高校・東大卒。夫人は松江の人。戦後『暮しの手帖』を創刊。流行を追わず、生活の合理化を図り、ものを大切にと言いつづけた。そして、ほかでもない松江には、堅実で合理的な暮らしが受け継がれている。

## (6) 終わりに

おそらく、ふるさと松江は、今、高橋氏という松江のよさを発掘、再確認、発信していくための最高のプロデューサーを戴いているのではないかと思う。郷土のために今後のご活躍を心からお願いし、お祈りする次第である。

なお、会員の皆様には、高橋氏の編集者としての半生の記『百冊百話』（青志社刊）と、地域の文化誌として評価の高い松江文化情報誌「湖都松江」（編集統括高橋一清、松江市文化協会刊 0852-26-1157）のご購読を是非おすすめしたい。

最後に、高橋氏が紹介する花森安治の言葉を「松江のたからもの一つ」として引用し、ご報告を終わらせていただく。

日本人の暮らし方の、ひとつの原型が、ここに  
いきているのである。

空気の明るさと、あまさと、この上なく美しい  
町並みである。

日本人みんなの心になぐさめと安らぎを与えて  
くれるなにかが、ここに生きている。

（『暮しの手帖』75号『水の町 松江』-1964年）

佐和田司法書士事務所（松江市）顧問  
島根県・遣島使 縁結びボランティア

**佐和田 丸**（松高10期）

〒573-1182 大阪府枚方市御殿山町 11-33-610

電話・FAX 072-848-7417

E-mail: malu122@nifty.com

HP: <http://simane.do47.net/kadoya.html>

神々のふるさと山陰 <http://furusato.sanin.jp/>

以下縁結びコーナー

- ・求妻 1979 生 大学院専修科 茨木市内神社跡取 結婚後別居
- ・求妻 1945 生 阪大薬卒業薬剤師 松江市内薬局勤務

**弁護士 新谷 勇 人**

（松高11期）

事務所

〒530-0041 大阪市北区天神橋 2-3-10 の201

tel: 06-6882-0891 fax: 06-6882-0892

e-mail: [arayaisahito@gmail.com](mailto:arayaisahito@gmail.com)



鉄道車両用、船用、電気部品の製作



株 式 会 社  
トーヨーコーポレーション  
TOYO & ENGINEERING CORP.

高 7 期(昭和31卒) 山本雅昭

本社/〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-21-35 ザ・ファーストビル Tel.06-6443-2061 Fax.06-6443-9736  
豊中工場 / 東京支店

<http://www.toyocorp.co.jp>

## 編 集 後 記

「設立 55 周年記念号」だった前号は、背表紙付き 127 頁。それに比べると今号はかなりコンパクトになりました。ただし、ご覧になってお分かりのように、内容は実に盛りだくさん。編集側が言うのもなんですが、楽しく、ためになる会報になりました。ご講演いただいた宮崎尚子さんはじめ、原稿をお寄せいただいた皆様に改めて御礼申し上げます。

押田良樹会長から松本耕司新会長へ。2014 年度総会で会長交代の人事が承認されました。お二人のあいさつの言葉を借りるなら、「心のオアシス」を「次代につないでいく」ためのバトンタッチ。押田会長、5 年間ご苦勞様でした。私も新役員陣の一人として微力を尽くしたいと思います。今号も何から何まで松本会長のお手を煩わせてしまいました。

(渡辺 悟=高 20 副会長)

### 近畿双松会報

2014 (平成 26) 年度版 通巻 56 号

発効日/平成 27 年 3 月 31 日

編集兼発行者/近畿双松会

発行所/近畿双松会事務局

所在地/〒 550-0002

大阪市西区江戸堀 1-21-35

(株)トーヨーコーポレーション内

TEL 06-6443-2062

FAX 06-6443-9736

郵便振替口座/00910-0-103665

近畿双松会